

尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査 結果報告書

平成 30 年 6 月

【目次】

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査概要	2
3. 報告書の見方	2
II. 調査の結果	3
1. 回答者について	4
2. 本市での生活について	7
3. これからのまちづくりについて	14
4. 暮らしの満足度と今後の重要度について	46

Ⅰ. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は「第6次尾鷲市総合計画」の進行管理にあたり、市民の皆様のご意見を反映すべく、またこれからのまちづくりに関してどう考えているのかを把握するため、毎年アンケート調査を実施しているものです。

2. 調査概要

調査区域 : 尾鷲市全域
調査対象 : 18歳以上の市民から1,000人を無作為抽出
調査時期 : 平成30年3月
配布数 : 1,000票
回収数 : 367票
回収率 : 36.6%

3. 報告書の見方

回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

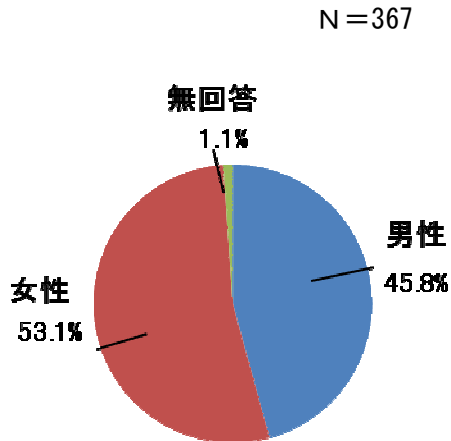
グラフ及び表の「N数 (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

II. 調査の結果

1. 回答者について

問1 あなたの性別をお聞かせください。

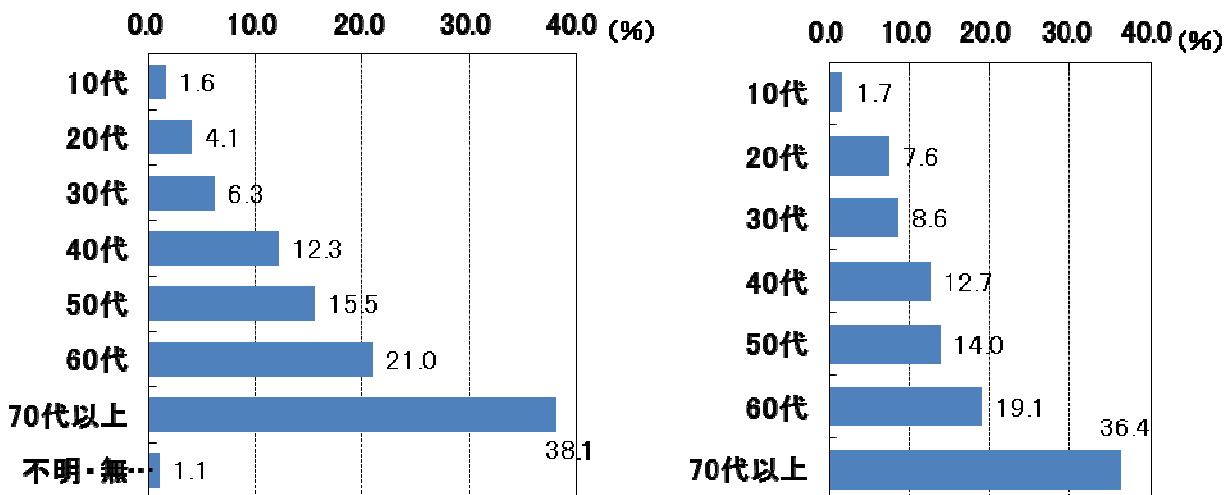
回答者の性別は、「女性」が53.1%、「男性」が45.8%、無回答が1.1%となっています。



問2 あなたの年齢をお聞かせください。

回答者の年齢は、「60代」が21.0%、「70代以上」が38.1%と、60代以上が約6割を占めています。右図の住民基本台帳の人口割合と比較すると、「50代」「60代」「70代」で実際の割合より高く、その他の年代では低くなっています。

N=367



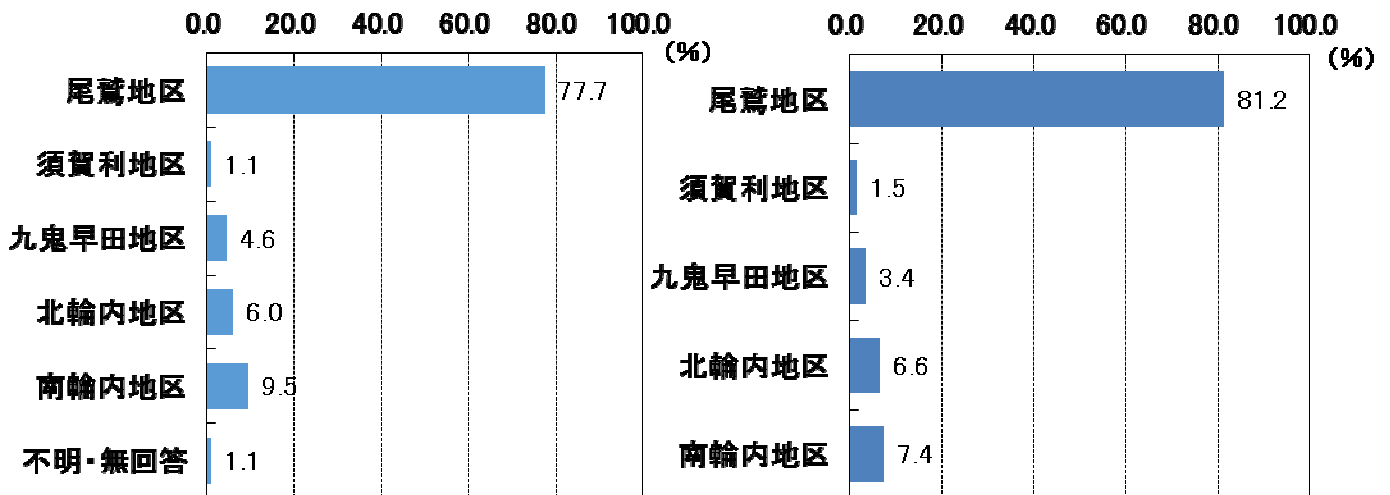
(参考)：住民基本台帳平成30年1月現在

※調査対象である18歳以上の人口の年齢構成比。10代は18、19歳のみ。

問3 あなたは、尾鷲市のどの地区にお住まいですか。

回答者の居住地区は、「尾鷲地区」が 77.7%と大半を占めています。右図の住民基本台帳の人口割合と比較しても、ほぼ同じ割合となっています。

N=367

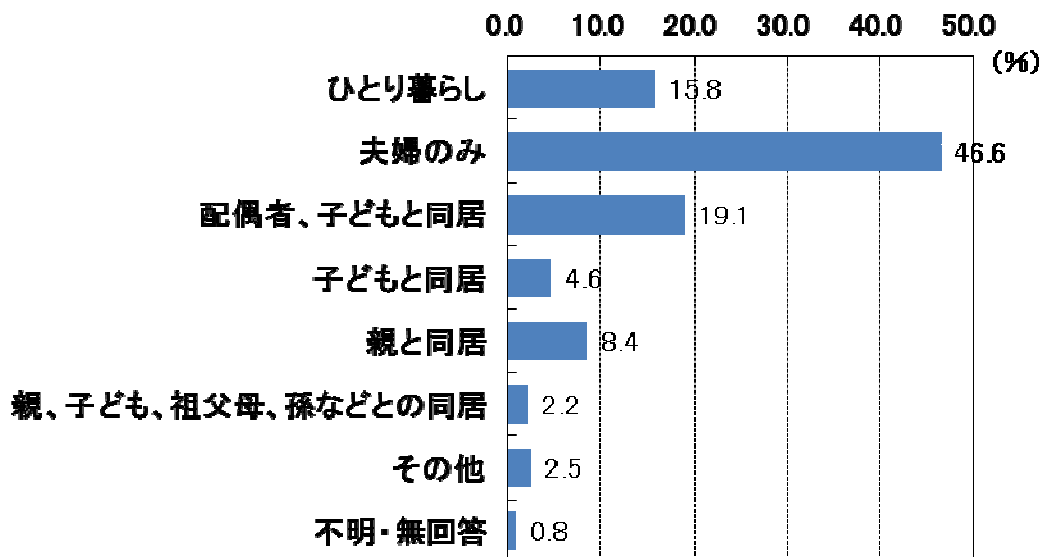


(参考)：住民基本台帳平成 28 年 4 月現在

問4 あなたの世帯の状況を教えてください。

回答者の世帯の状況は、「夫婦のみ」が 46.6%、「ひとり暮らし」が 15.8%、「配偶者、子どもと同居」が 19.1%となっています。

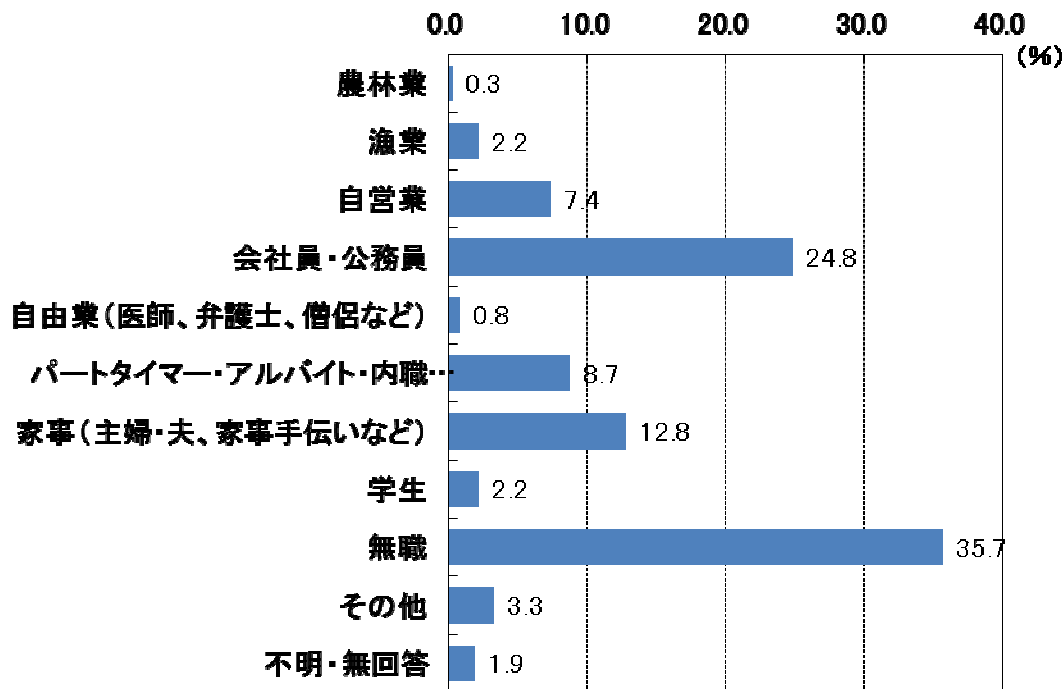
N=367



問5 あなたの主な職業をお聞かせください。

回答者の職業は、「無職」が 35.7%、「会社員・公務員」が 24.8%、「家事（主婦・夫、家事手伝いなど）」が 12.8%となっています。

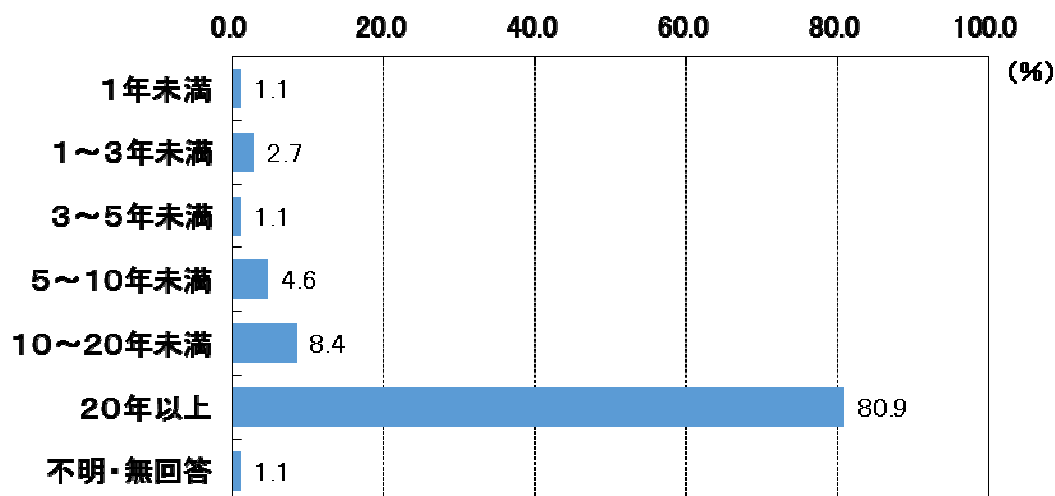
N=367



問6 あなたが尾鷲市にお住まいになってから何年経過していますか。

回答者の居住年数は、「20年以上」が 80.9%と大半を占めています。

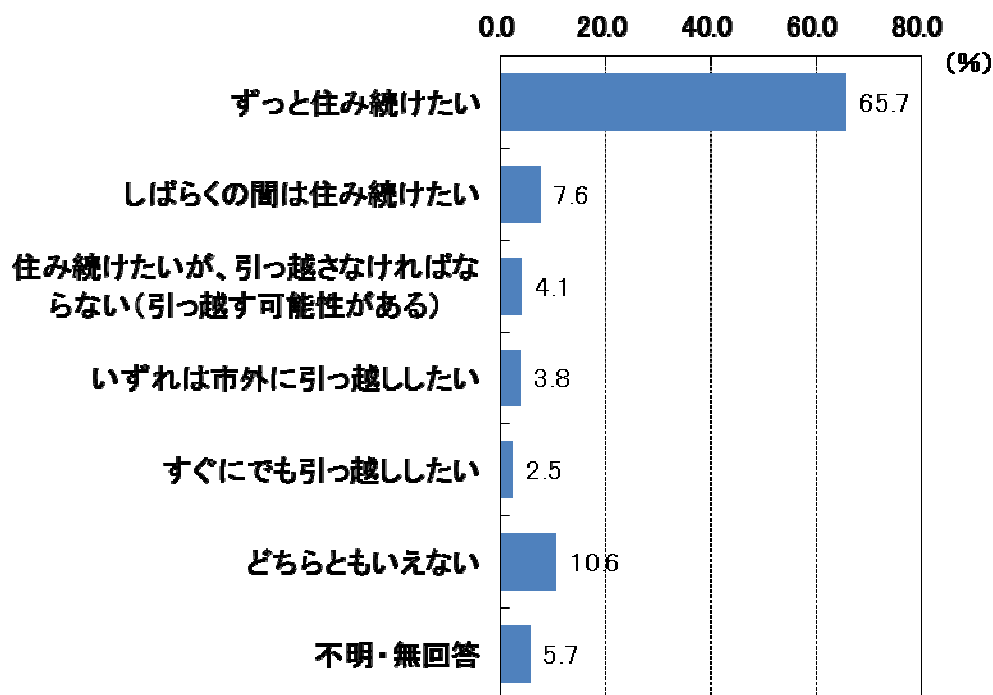
N=367



2. 本市での生活について

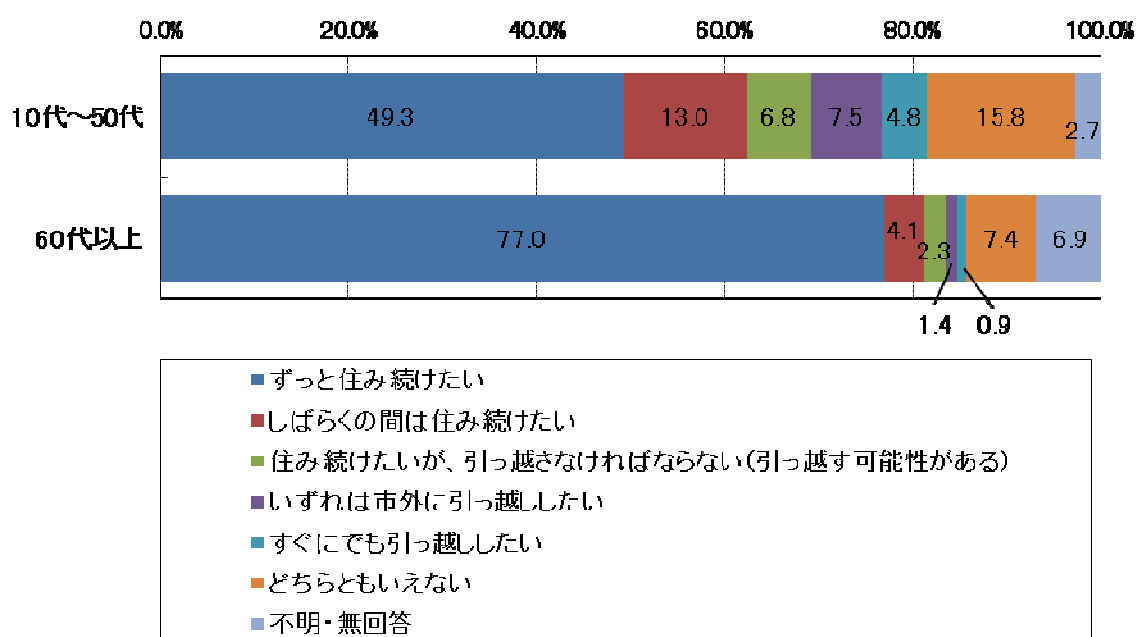
問7 あなたは、これからもずっと尾鷲市に住み続けたいとお考えですか。

定住意向は、「ずっと住み続けたい」が 65.7%、「しばらくの間は住み続けたい」が 7.6%と、「住み続けたい」と答えた方が合計で 73.3%と4分の3近くを占めています。



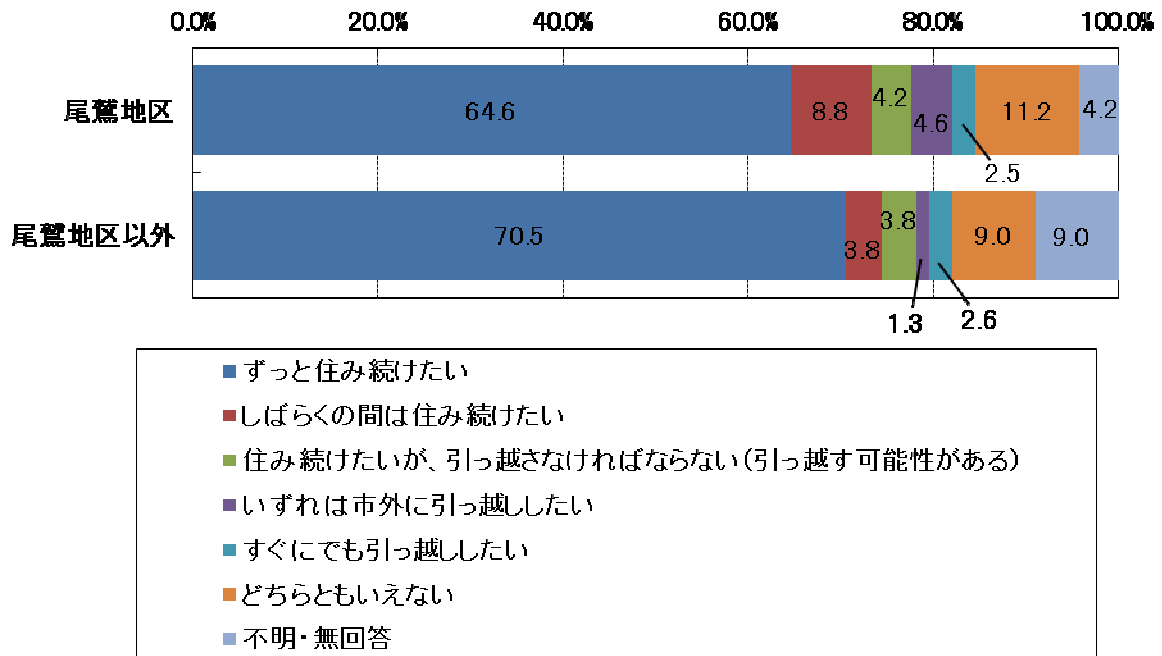
問7×年代

定住意向を年代別に見ると、「ずっと住み続けたい」は、「60代以上」では75%を越えているのに対し、「10代～50代」では50%弱であり、年代による差が見られます。



問7×居住地区

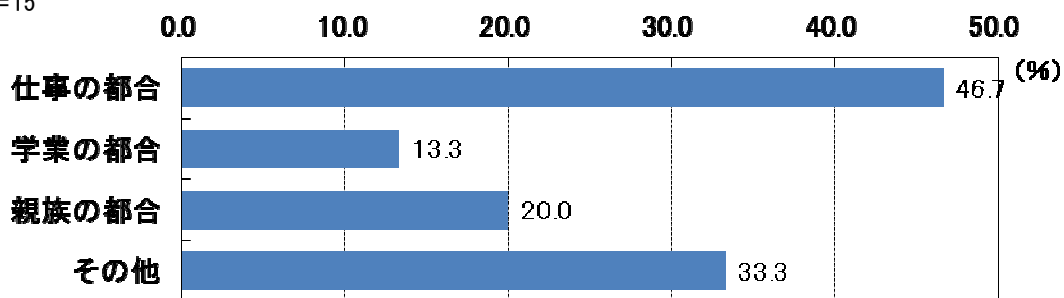
定住意向を地区別に見ると、「ずっと住み続けたい」は、「尾鷲地区以外」の方が若干高くなっています。



問8 【問7で「住み続けたいが、引っ越さなければならない(引っ越す可能性がある)」とお答えになった方におうかがいします。】引っ越す可能性がある理由は何ですか。

引っ越さなければならない理由は、「仕事の都合」が 46.7%で最も多く、次いで「親族の都合」が 20.0%となっています。

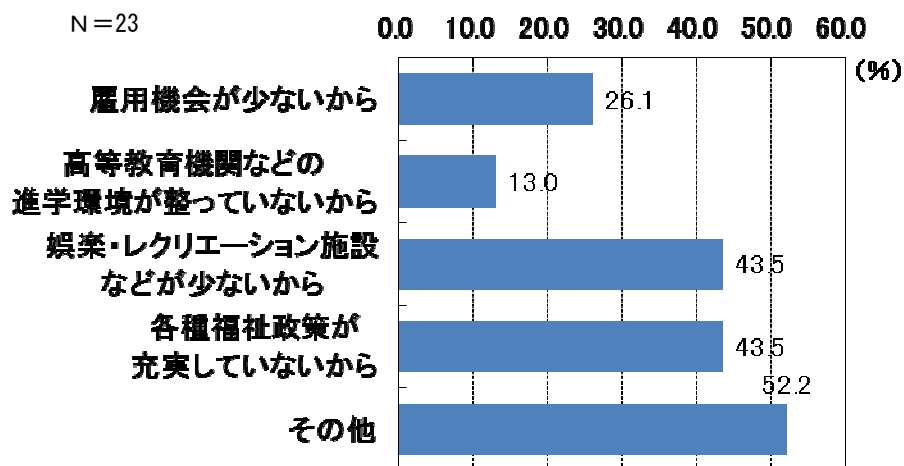
N=15



その他	
津波の来ない場所へ引っ越す予定	
働けなくなったら、子供のところへ引っ越す予定	
車の運転ができなくなったら、引っ越す可能性がある	
子供の近くに引っ越す可能性がある	

問9 【問7で「いずれは市外に引っ越したい」または「すぐにでも引っ越したい」とお答えになった方におうかがいします。】市外に引っ越したい理由は何ですか。

引っ越したい理由は、「**娯楽・レクリエーション施設などが少ないから**」、「**各種福祉政策が充実していないから**」が同率の43.5%となっています。



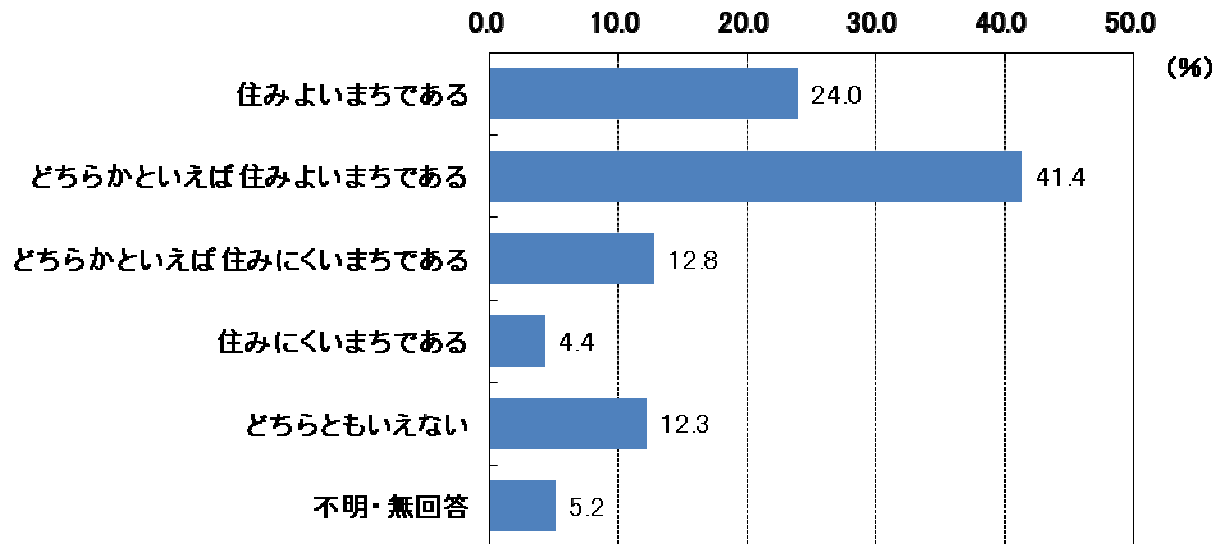
※複数回答があったため、合計が100%を超えています。

その他
しごとで得た知識を、他所で活かしたい
家の都合(子供が市街在住)
津波による被災が心配
タクシー等交通手段が不便で、老後が心配
実家から遠い
医療機関が少ない
市街地が遠い
会社が市外にある
市政に不満がある

問 10 あなたは、尾鷲市を全体としてどのようにお考えですか。

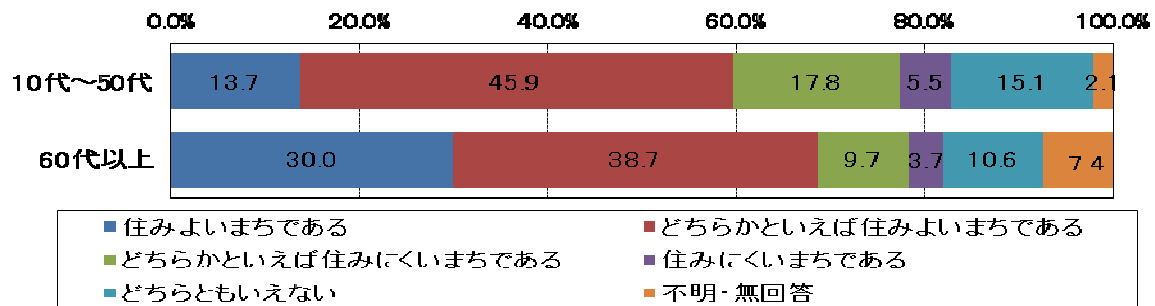
尾鷲市全体の評価として、「どちらかといえば住みよいまちである」が41.4%、「住みよいまちである」が24.0%となっており、合計で65.4%が「住みよいまち」としています。

N=367



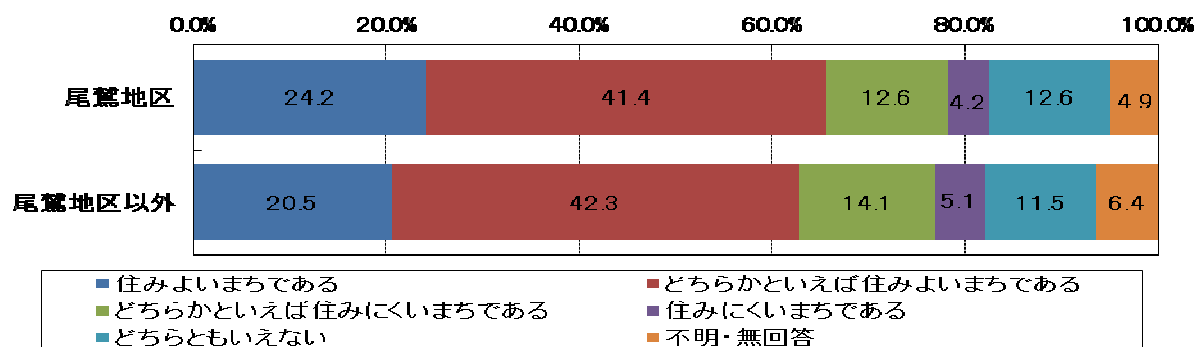
問 10×年代

尾鷲市全体の評価を年代別に見ると、「住みよいまちである」と「どちらかといえば住みよいまちである」の合計は、「60代以上」では7割弱であるのに対し、「10代～50代」では6割弱であり、年代による差が見られます。



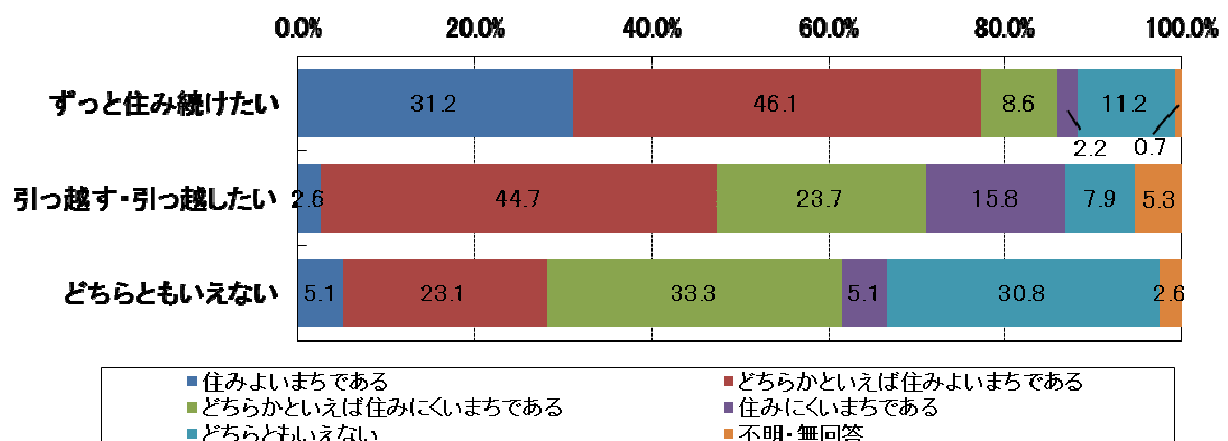
問 10×居住地区

尾鷲市全体の評価を地区別に見ると、「住みよいまちである」と「どちらかといえば住みよいまちである」の合計は、いずれの地区でも6割を越えています。



問 10×定住意向

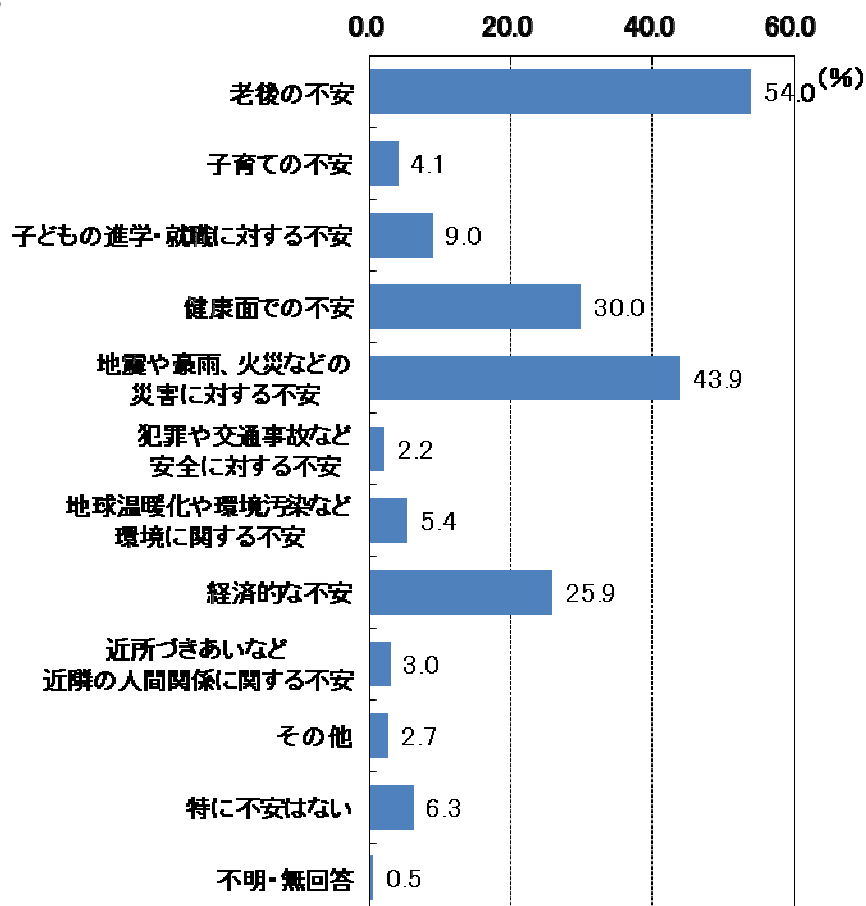
尾鷲市全体の評価を定住意向別に見ると、「住みよいまちである」と「どちらかといえば住みよいまちである」の合計は、「ずっと住み続けたい」と答えた方では7割以上となっているのに対し、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方では5割弱にとどまり、定住意向による差が見られます。



問 11 現在、あなたが不安に感じていることは何ですか。(複数回答)

現在不安に感じていることとして、「老後の不安」が54.0%、「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」が43.9%、「健康面での不安」が30.0%となっています。

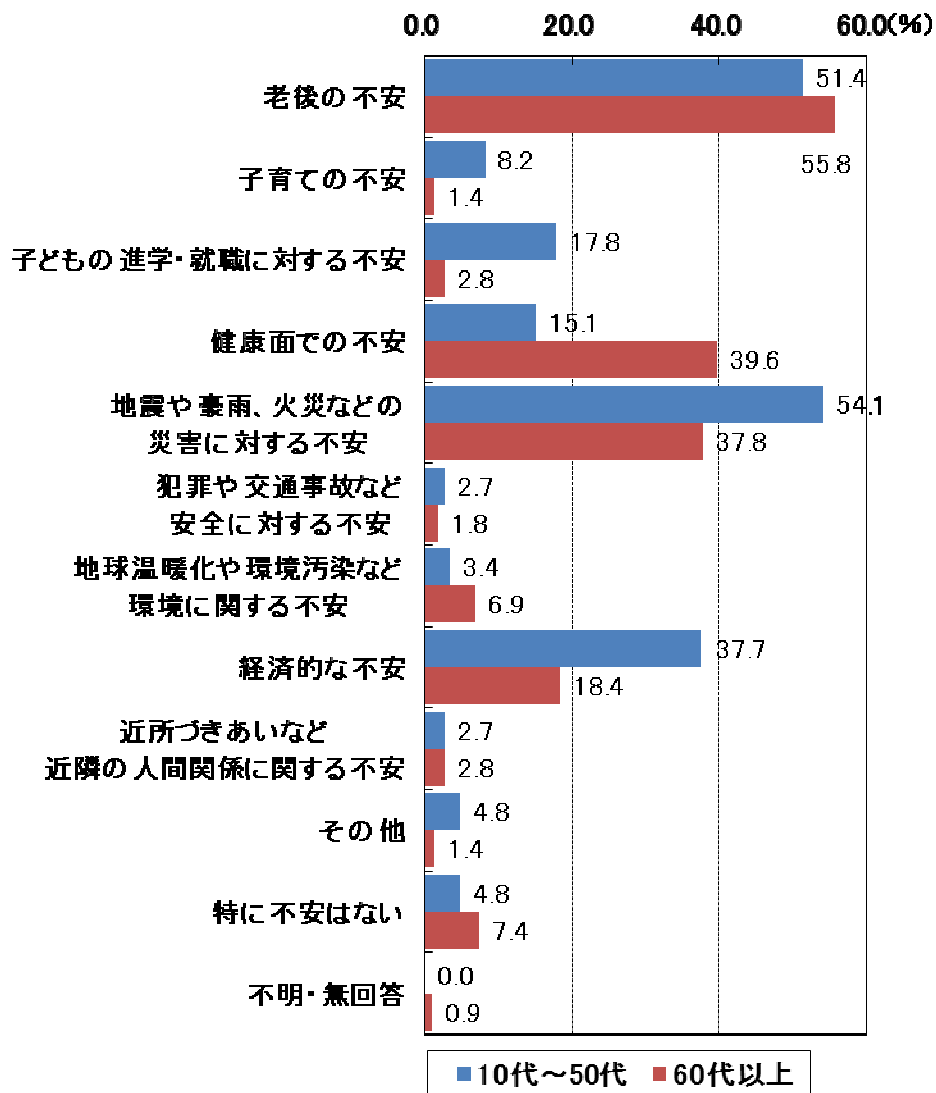
N=367



その他	
市の財政運営への不安	総合病院の医療機器が不十分なことへの不安
公共交通が不便なことへの不安	賃金が低いことへの不安
地域人口が減少していることへの不安	仕事が無くなるか不安
ゴミ処分場が市内へ立地することへの不安	家族が就職のために尾鷲をはなれることへの不安
市の将来的な展望への不安	

問 11×年代

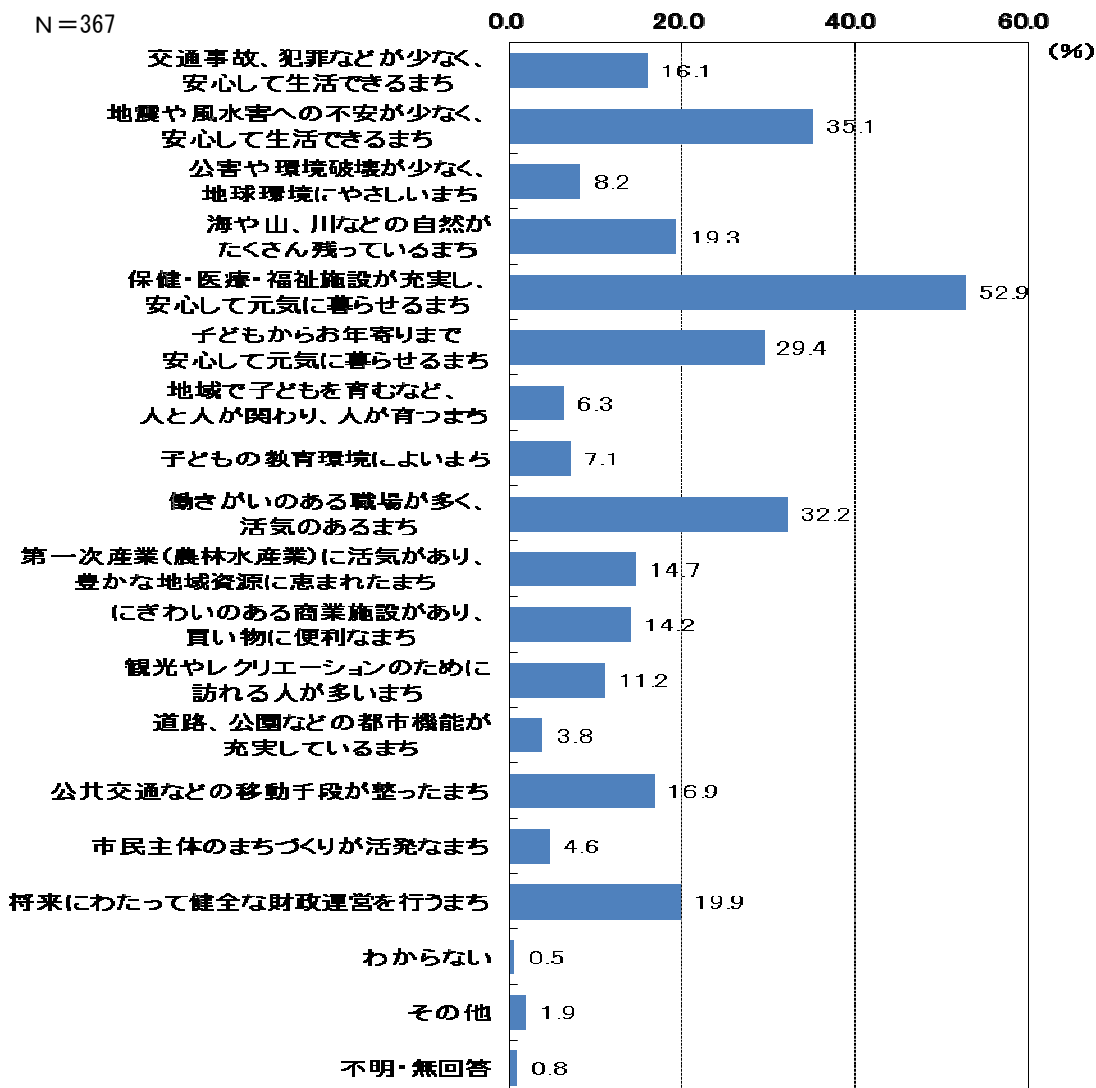
現在不安に感じていることを年代別に見ると、「10代～50代」では「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」「老後の不安」や「経済的な不安」の割合が高く、「60代以上」では「老後の不安」「健康面での不安」や「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」の割合が高くなっています。



3. これからのまちづくりについて

問 12 あなたは、尾鷲市が将来どのようなイメージのまちになってほしいと思いますか。
(複数回答)

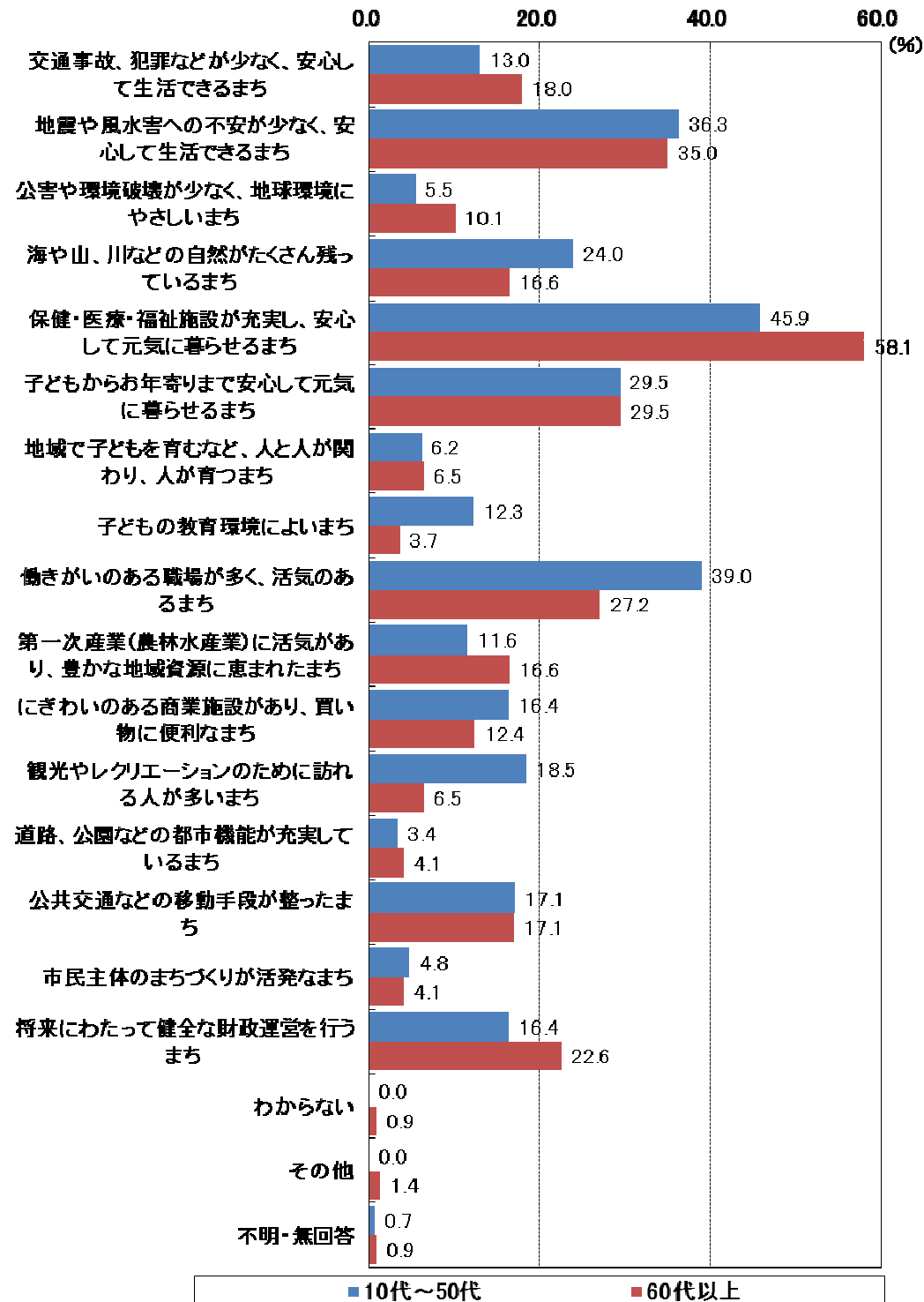
尾鷲市の将来イメージで希望するものとして、「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が 52.9%、「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」が 35.1%、「働きがいのある職場が多く、活気のあるまち」が 32.2%となっています。



その他
今を見ていて将来性に期待できない
家族が尾鷲に住みたいのに就職先がない
スポーツ施設が少ない

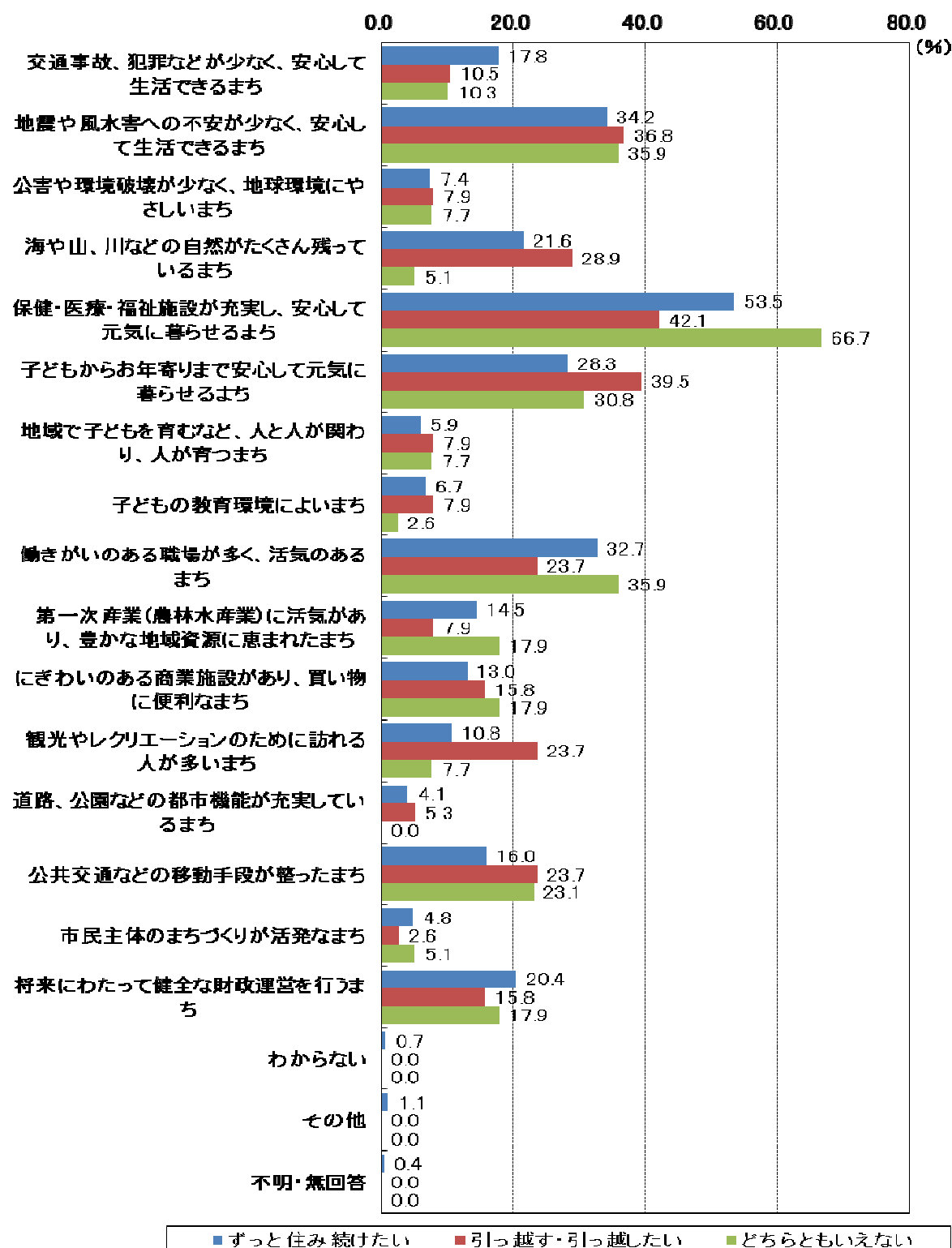
問 12×年代

尾鷲市の将来イメージで希望するものを年代別に見ると、全世代で「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が高くなっています。次いで「10代～50代」では「働きがいのある職場が多く、活気のあるまち」が、60代以上では「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」が高くなっています。



問 12×定住意向

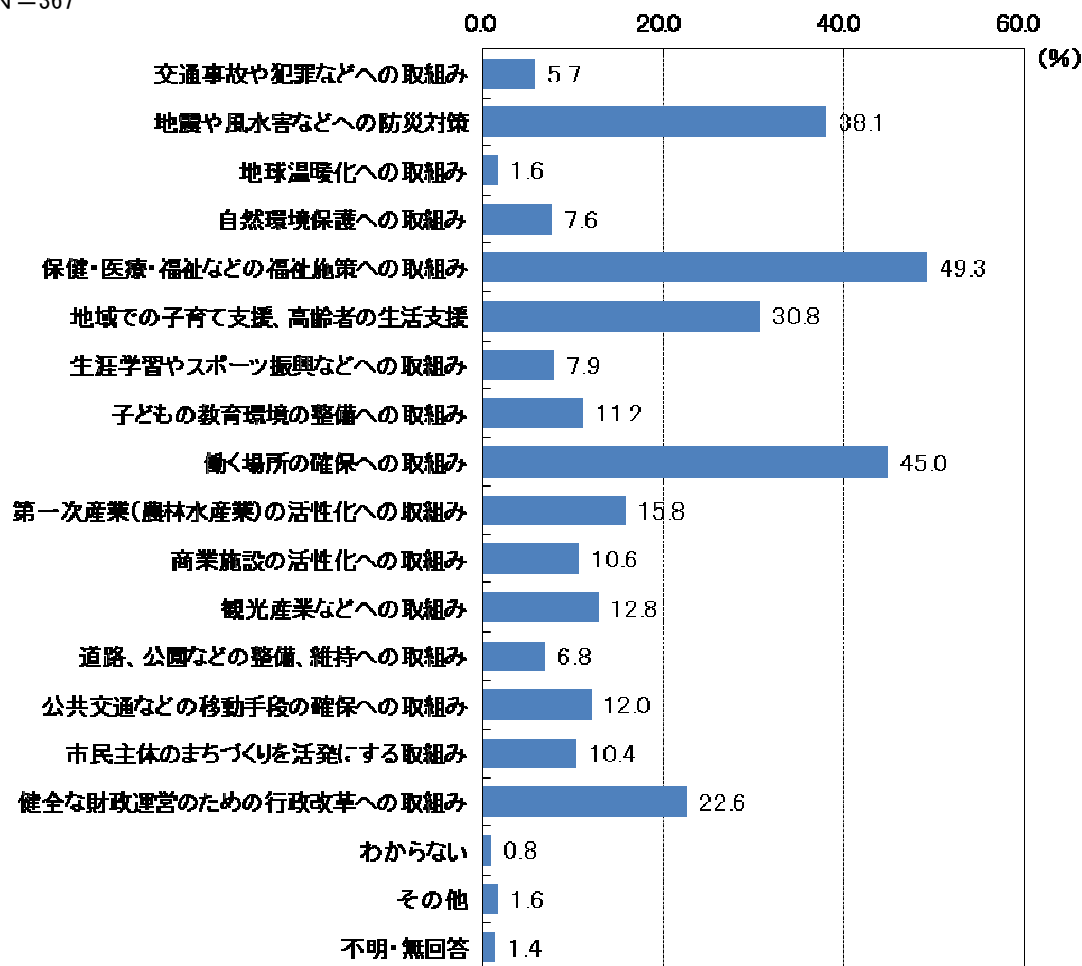
尾鷲市の将来イメージで希望するものを定住意向別に見ると、「ずっと住み続けたい」「引っ越す・引っ越したい」を選んだ方に共通して、「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が最も高くなっています。



問 13 あなたは、尾鷲市がこれからまちづくりを進めるうえで、市が積極的に進めるべき取り組みは何であるとお考えですか。（複数回答）

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みとして、「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が49.3%、「働く場所の確保への取り組み」が45.0%、「地震や風水害などへの防災対策」が38.1%となっています。

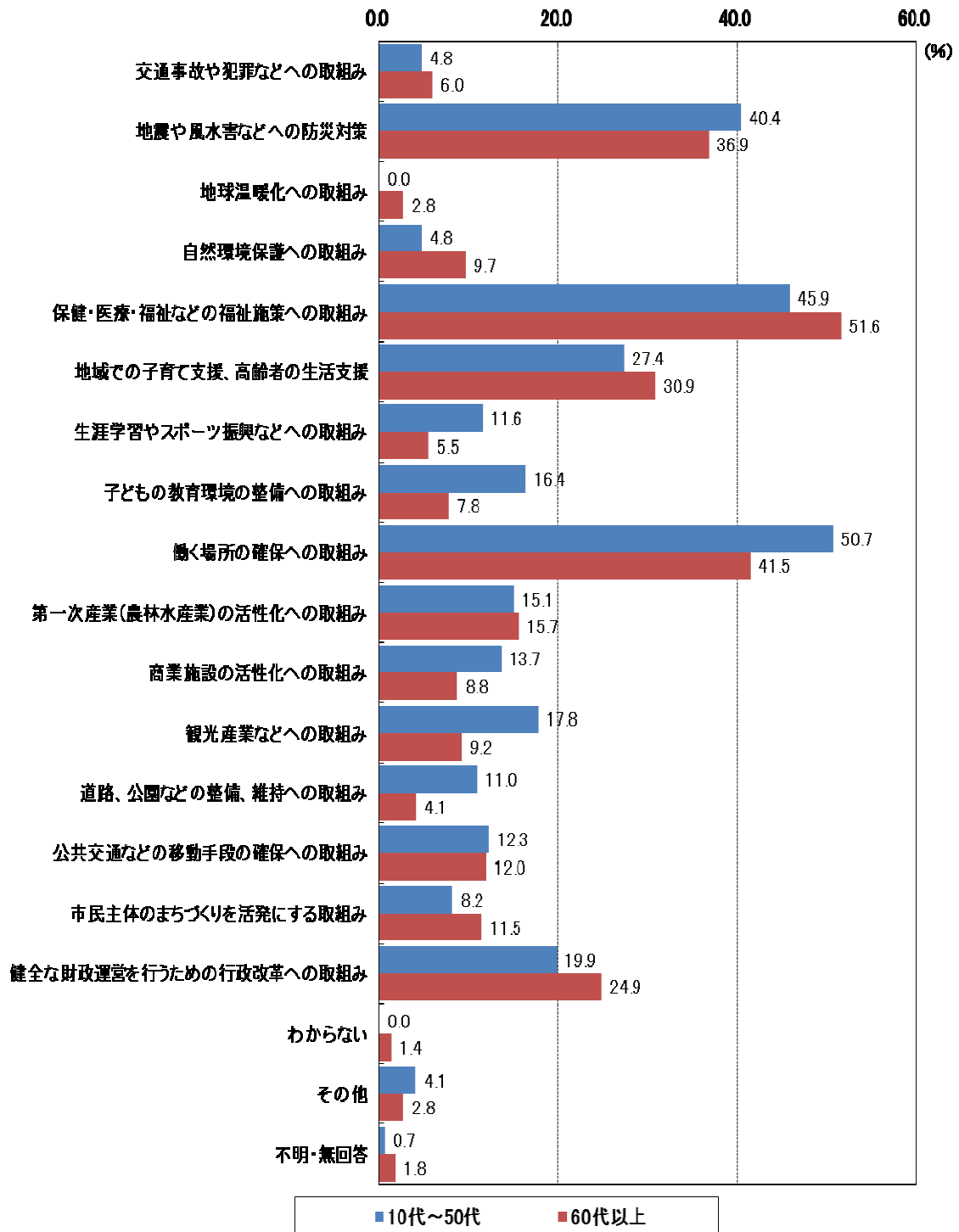
N=367



その他
総合病院の医療を積極的に考えてほしい。
採石事業を行えば、自然環境を破壊する恐れがある。
来訪者のごみ等投棄防止、飼い犬の糞の放置、捨て猫問題への対策が必要。
人口が増え、活気のある町づくりの取り組みが必要。
色々と行動を起こす必要がある。
若い人が働けて、収入を得ることができる人数を増やす必要がある。
若者の市外流出を防ぐため、大学等高等教育機関が必要。
住民一人一人が尾鷲を盛り上げる雰囲気を作ることが大切。
海釣り公園、トレッキング道の整備、ジビエに対する取り組み(ジビエカーや加工場)が必要。

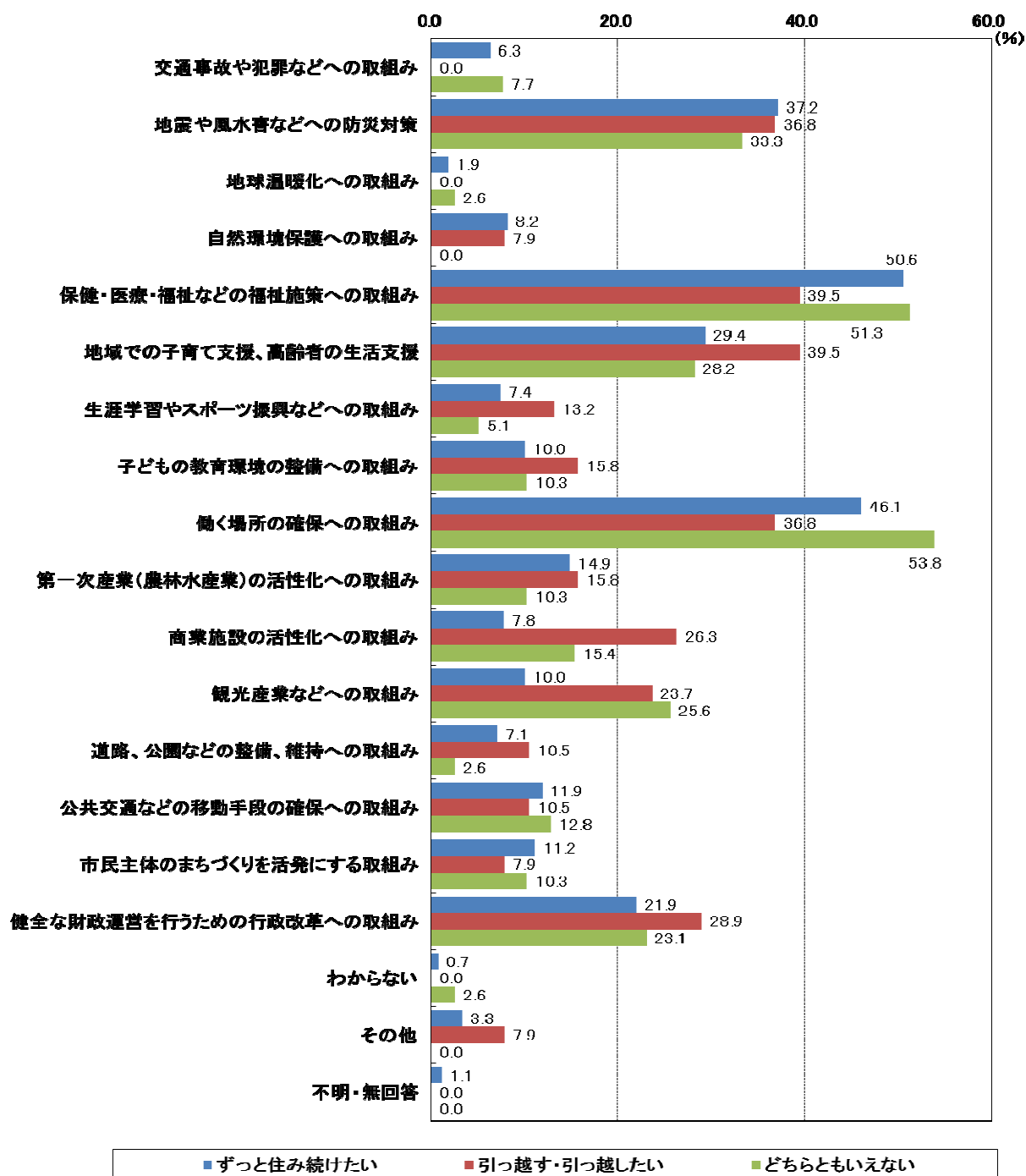
問 13×年代

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みを年代別に見ると、10代～50代では「働く場所の確保への取り組み」が最も高く、60代以上では「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が最も高くなっています。



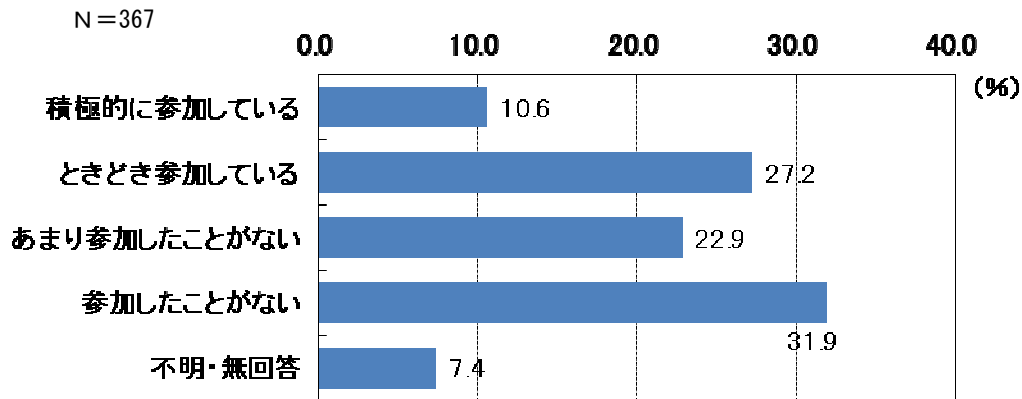
問 13×定住意向

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みを定住意向別に見ると、「ずっと住み続けたい」と答えた方、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方、いずれも「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が最も高くなっておりますが、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方は、「地域での子育て支援、高齢者の生活支援」が同率となっています。



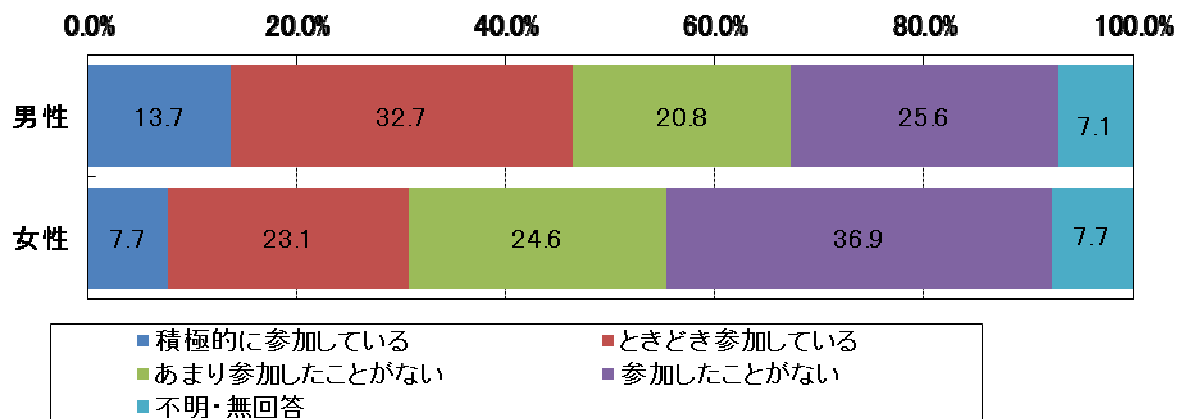
問 14 あなたは、地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがありますか。

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況として、「ときどき参加している」が27.2%、「積極的に参加している」が10.6%と、「参加している」層は4割弱となっています。



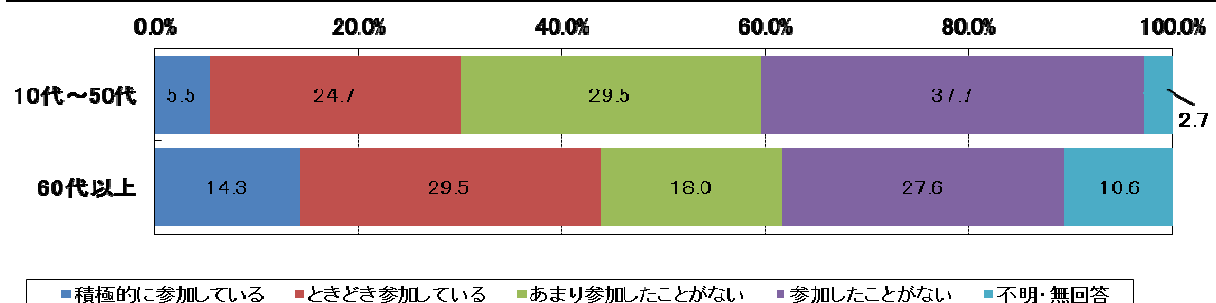
問 14×性別

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を性別ごとに見ると、「積極的に参加している」と「ときどき参加している」の合計は、「男性」の方が高くなっています。



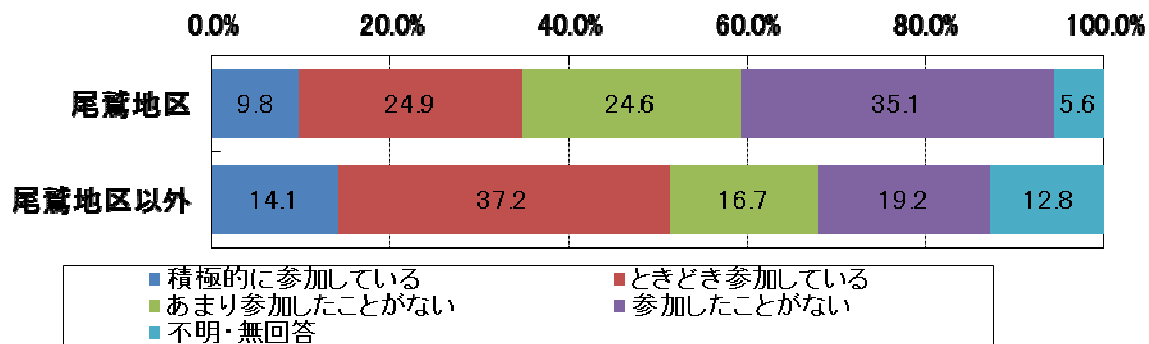
問 14×年代

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を年代別に見ると、「積極的に参加している」と「ときどき参加している」の合計が、「10代～50代」では3割程度であるのに対し、「60代」では4割を越えています。



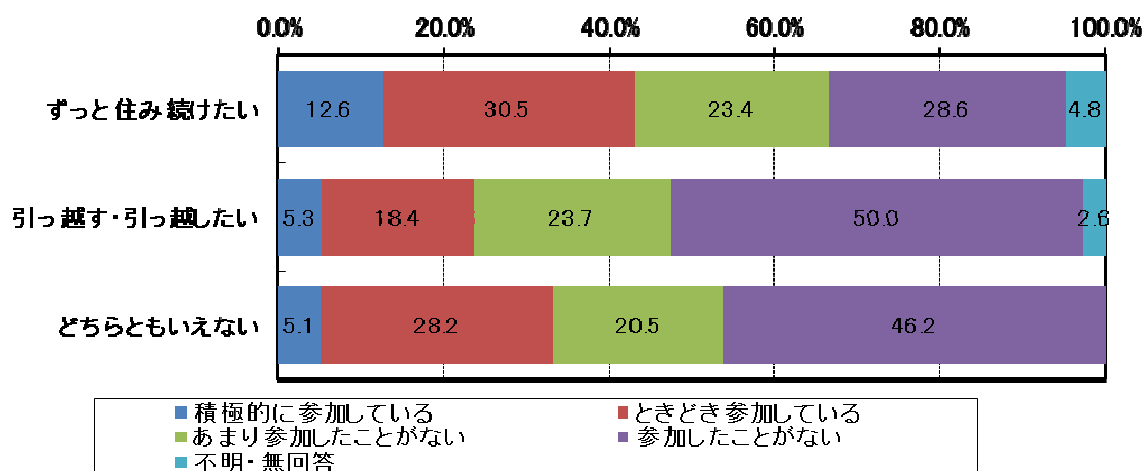
問 14×地区

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を地区別に見ると、「積極的に参加している」と「ときどき参加している」の合計が、「尾鷲地区」では3割程度であるのに対し、「尾鷲地区以外」では5割以上となっています。



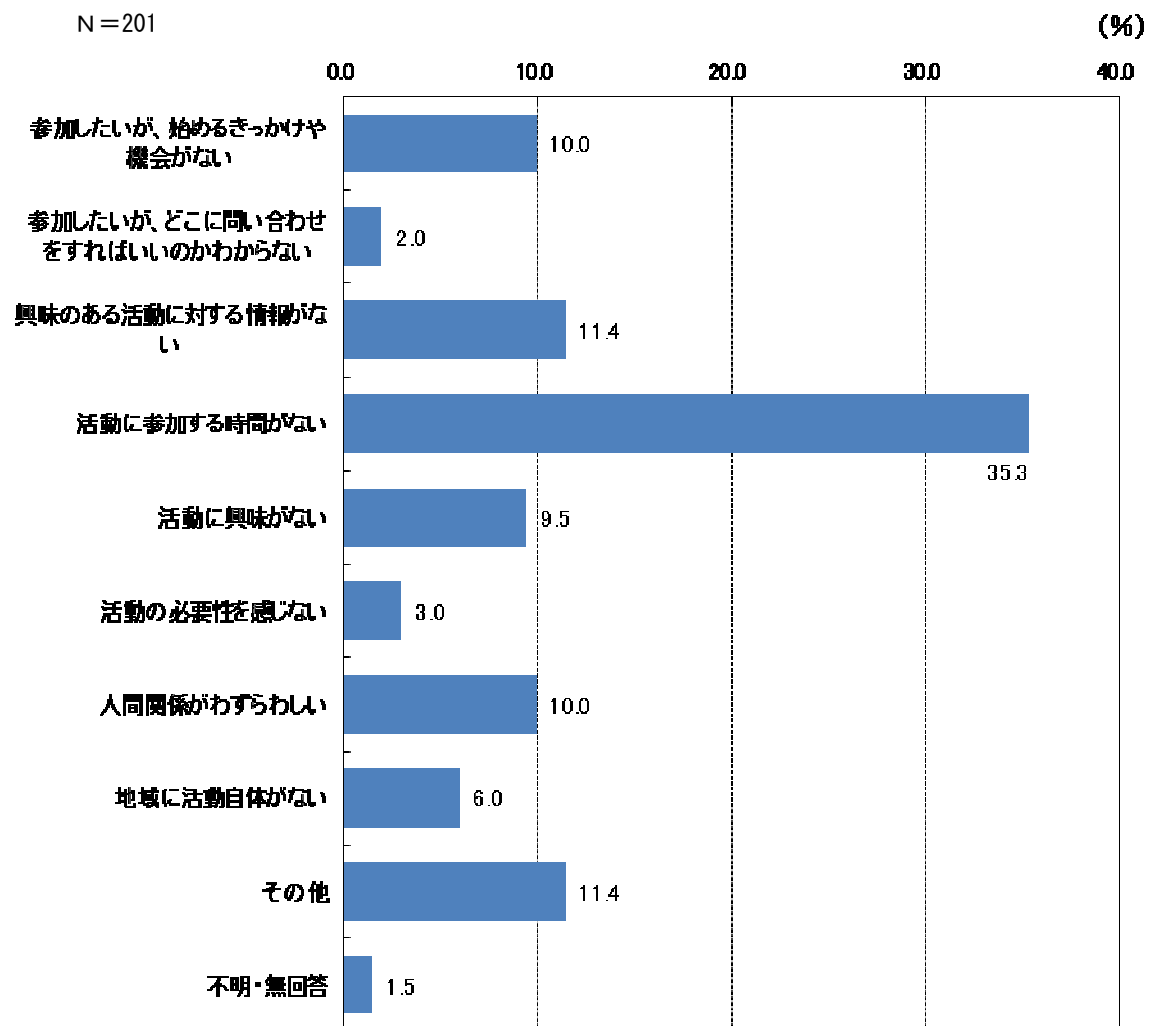
問 14×定住意向

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を定住意向別に見ると、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方に対し、「ずっと住み続けたい」と答えた方の「積極的に参加している」、「ときどき参加している」割合が高くなっています。



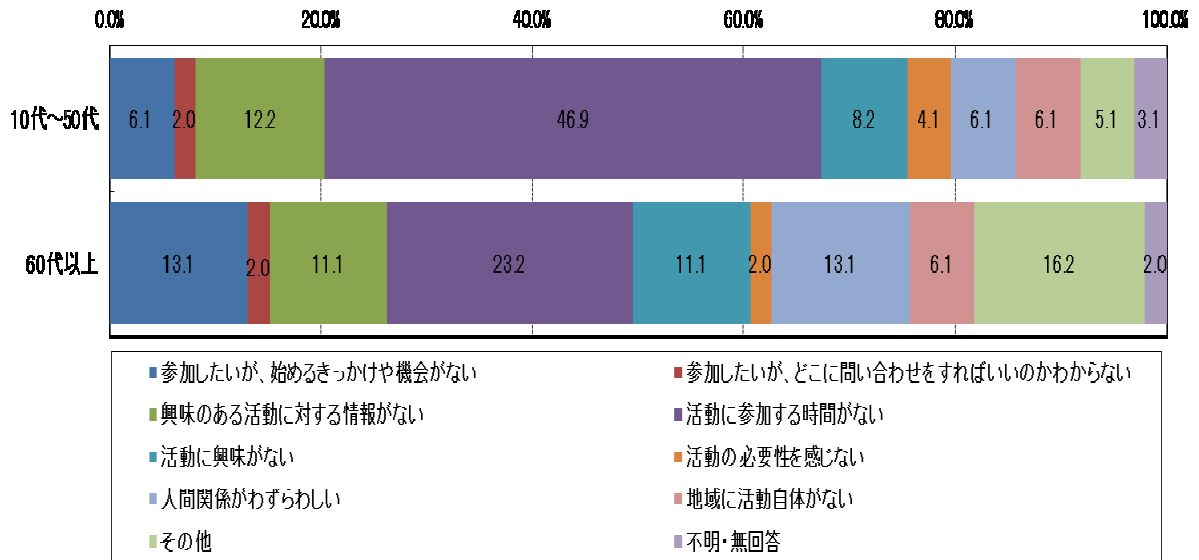
問 15 【問 14 で「あまり参加したことがない」または「参加したことがない」とお答えになった方におうかがいします。】「あまり参加したことがない」「参加したことがない」と回答された理由は何ですか。

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由として、「活動に参加する時間がない」が 35.3%、「興味のある活動に対する情報がない」が 11.4%、「人間関係がわずらわしい」「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」がそれぞれ 10.0%となっています。



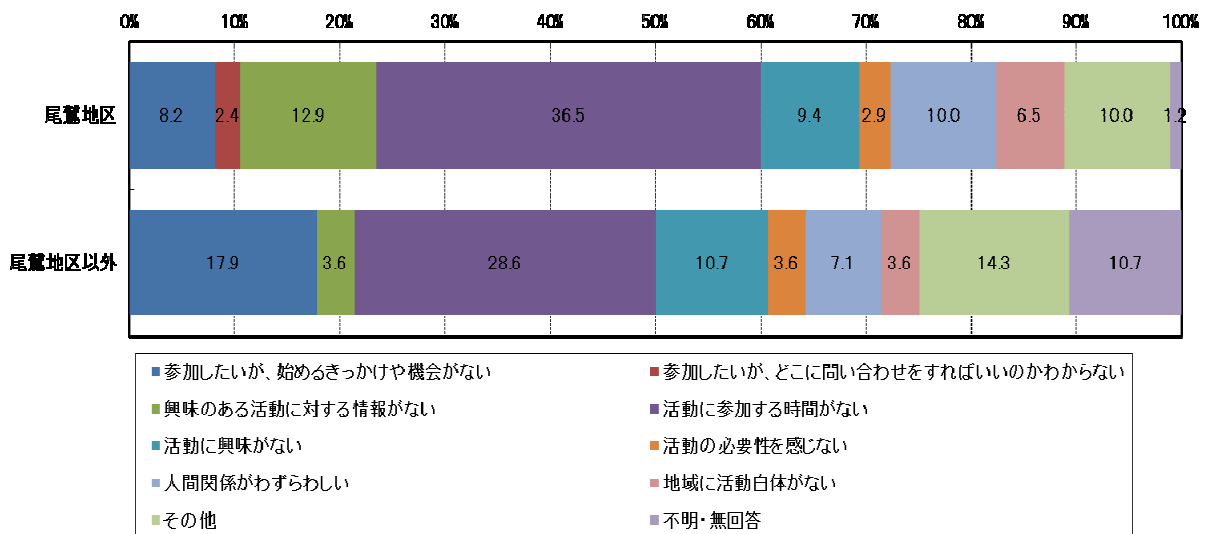
問 15×年代

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由を年代別に見ると、「活動に参加する時間がない」の割合は、「10代～50代」が「60代以上」に比べ2倍近くになっています。



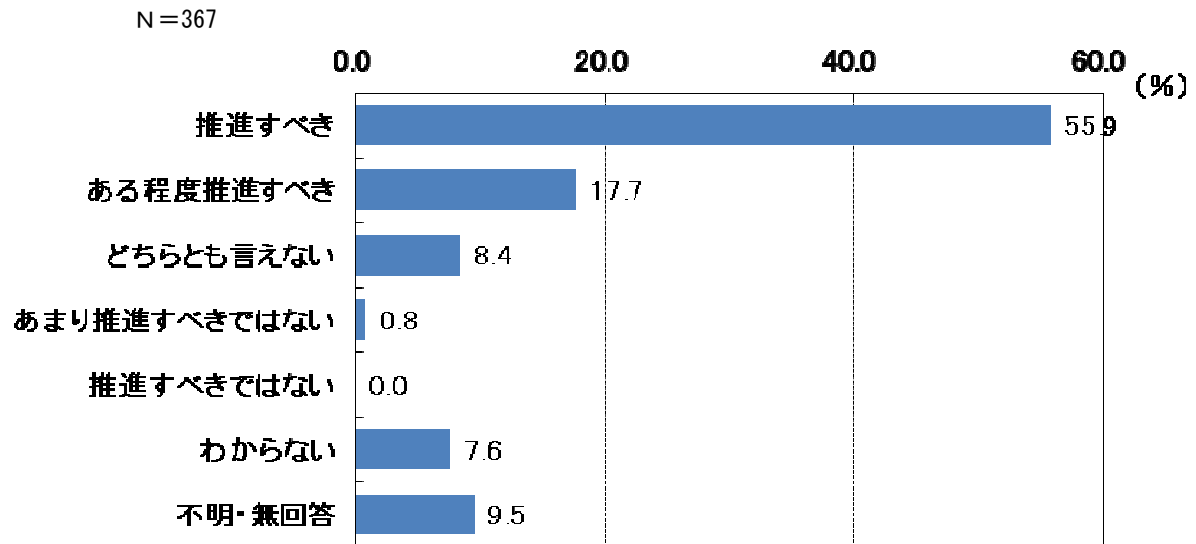
問 15×地区

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由を地区別に見ると、「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」では「尾鷲地区以外」の方が高く、「興味のある活動に対する情報がない」や「活動に参加する時間がない」では、「尾鷲地区」の方が高くなっています。



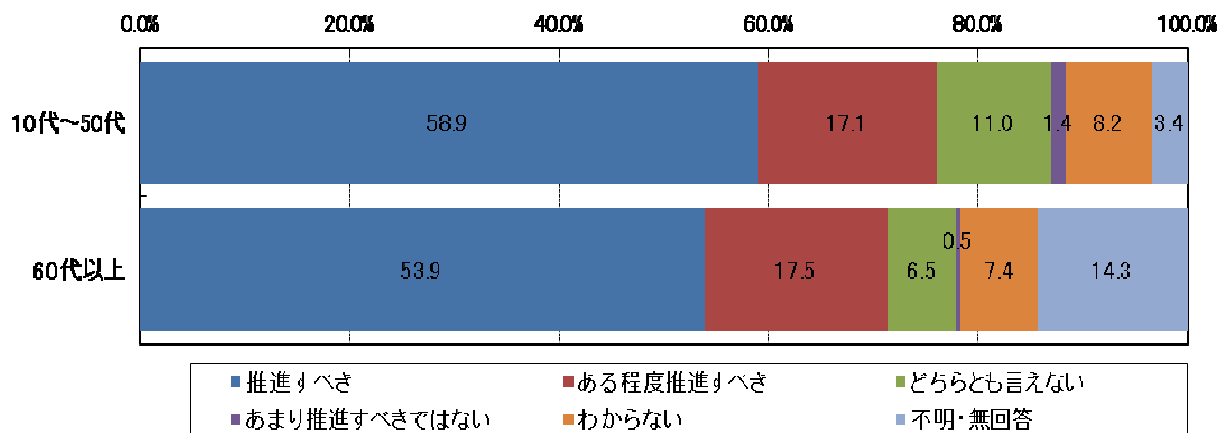
問 16 尾鷲市ではこれから、市役所を含む市民みんなで地域の課題を解決するために、目標を共有して、その目標達成のために取り組むことを進めたいと考えています。このことについてあなたはどのように考えますか。

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて、「推進すべき」が55.9%、「ある程度推進すべき」が17.7%と、「推進」した方が良いとの回答が7割以上となっています。



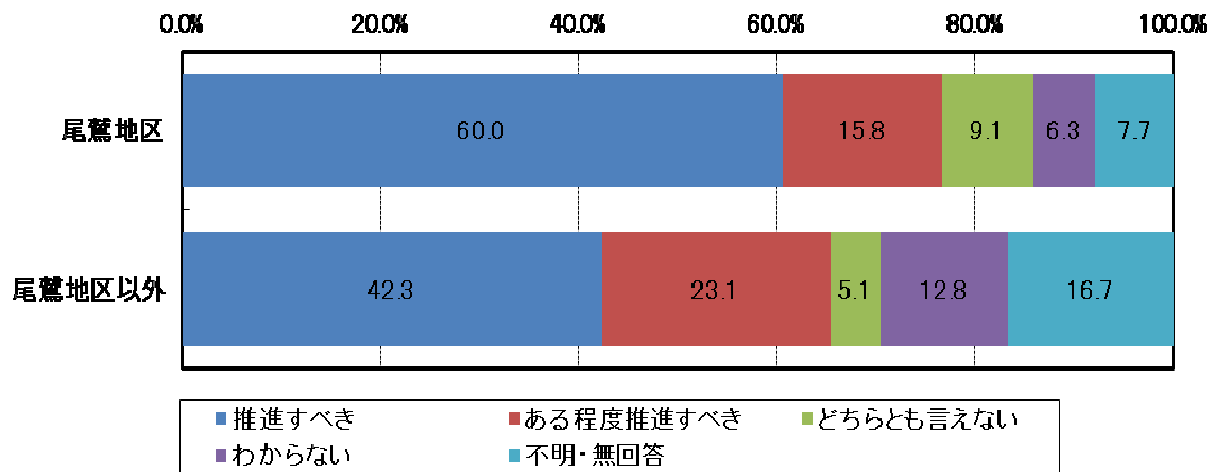
問 16×年代

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて年代別に見ると、「推進すべき」「ある程度推進すべき」と答えた方は、「10代～50代」「60代以上」ともに7割以上となっており、「60代以上」が若干低くなっています。



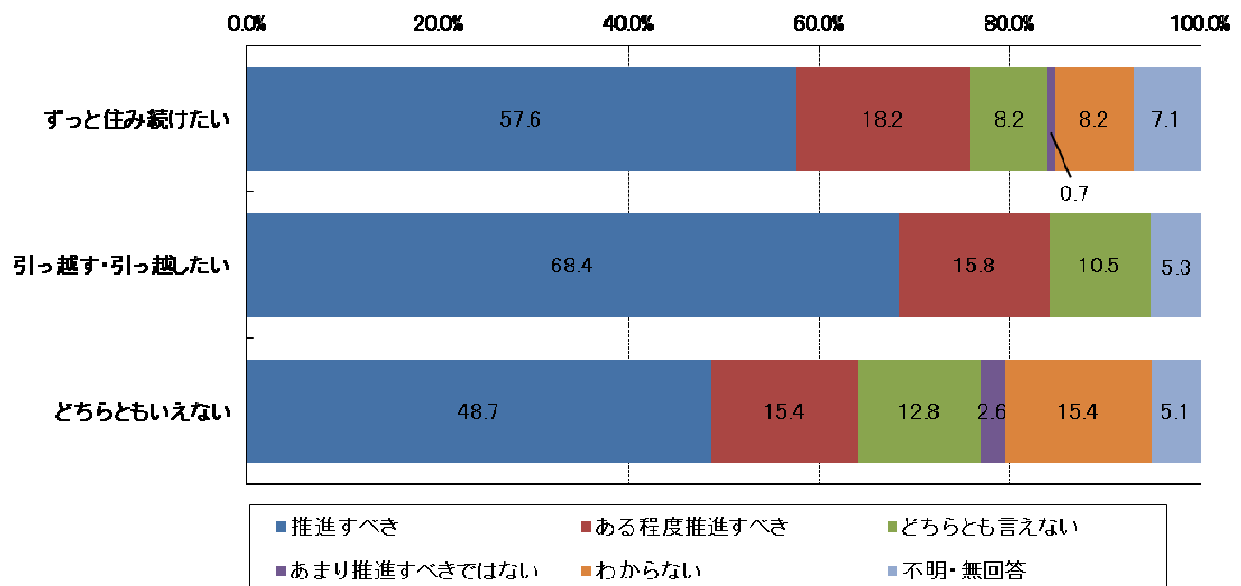
問 16×地区

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて地区別に見ると、「推進すべき」では、「尾鷲地区」にお住まいの方のほうが高くなっています。



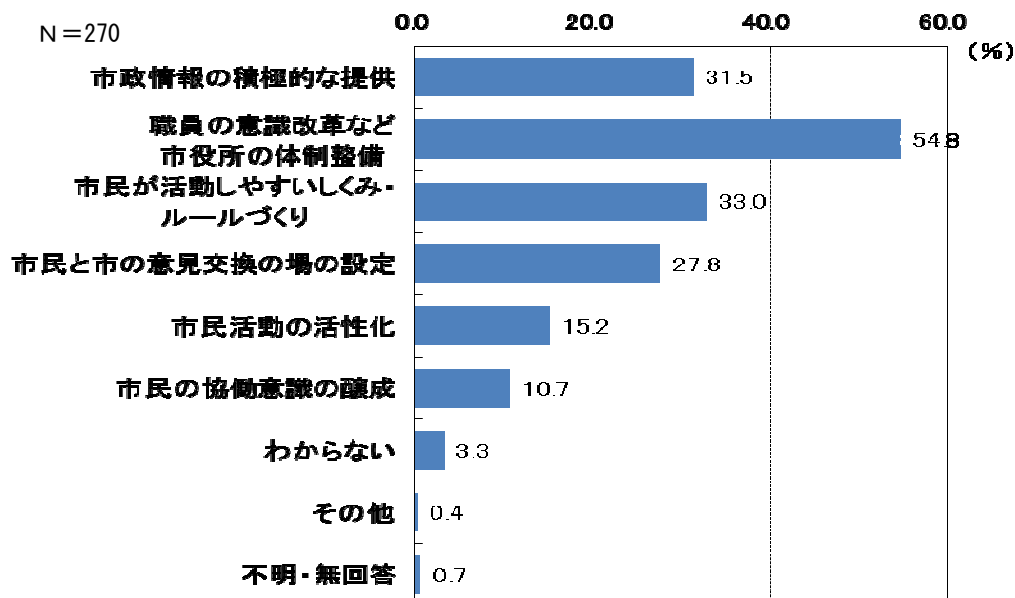
問 16×定住意向

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて定住意向別に見ると、「推進すべき」では、「引っ越す・引っ越したい」を選んだ方が若干高くなっています。



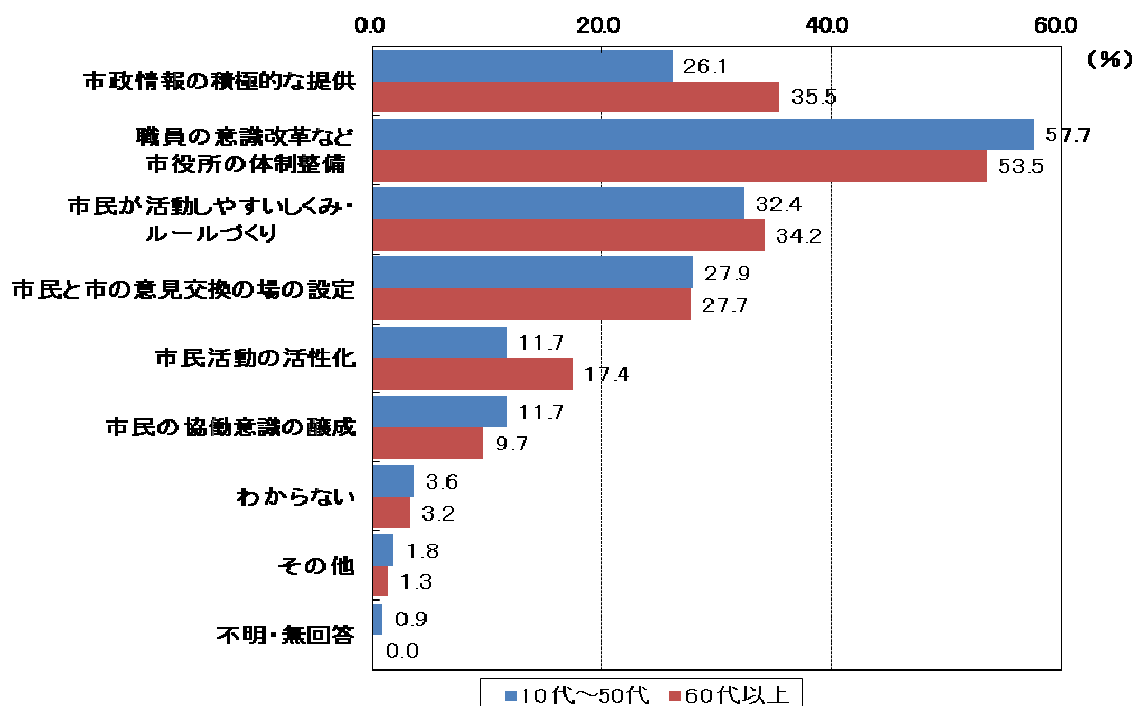
問 17 【問 16 で「推進すべき」または「ある程度推進すべき」とお答えになった方におうかがいします。】市民との協働のまちづくりを進めるうえで、あなたは、市がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。（複数回答）

市民との協働のまちづくりを進めるうえで市が取り組むべきこととして、「職員の意識改革など市役所の体制整備」が 54.8%、「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」が 33.0% となっています。



問 17×年代

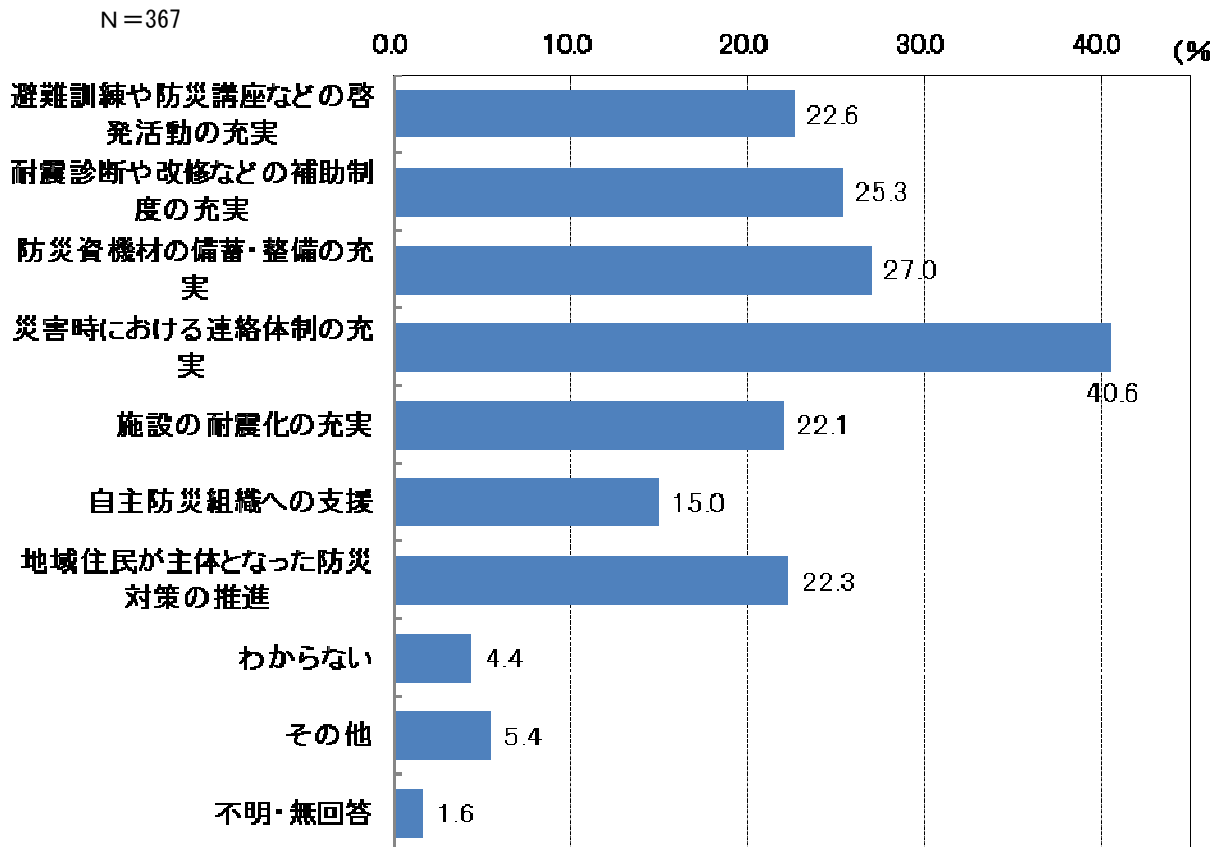
市民との協働のまちづくりを進めるうえで市が取り組むべきことを年代別に見ると、「職員の意識改革など市役所の体制整備」が各年代とも高くなっています。



【安全】

問 18 あなたは、地震や台風など災害による被害を防ぐ取り組みとして、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

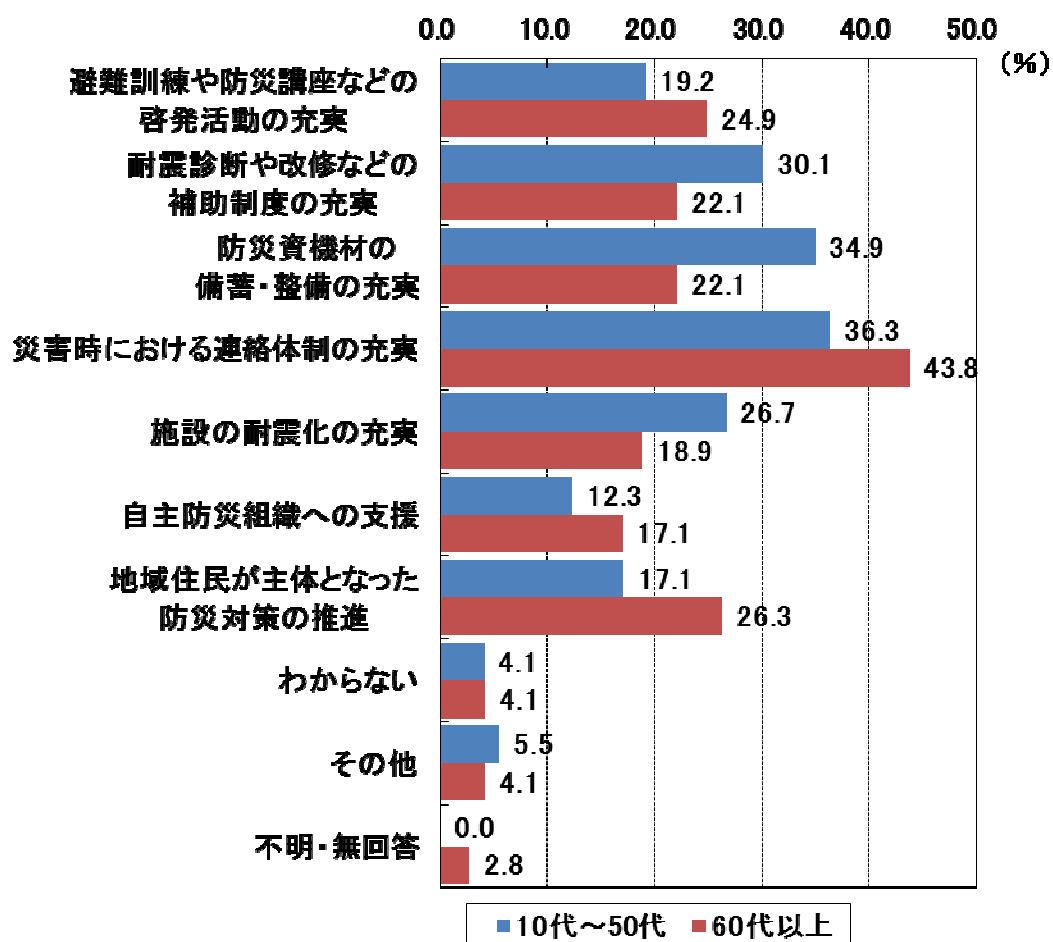
地震や台風など災害による被害を防ぐ取り組みとして、「災害時における連絡体制の充実」が40.6%、「防災資機材の備蓄・整備の充実」が27.0%、「耐震診断や改修などの補助制度の充実」が25.3%となっています。



その他	
高齢者のみの家庭への配慮	過去の防災、歴史の勉強し、啓発活動の充実
市職員、市民が参加する自主防災組織の確立	災害時の救援体制の確立
港の近くへの避難タワーの整備	個人所有物の損壊箇所への補助
堤防や道路の整備	自分の身は自分で守ることが必要
職員・市民による、災害時に備えた資格の取得	効果的な訓練の実施

問 18×年代

災害による被害防止策を年代別に見ると、「災害時における連絡体制の充実」が全世代において割合が高く、次いで「10～50代」では「防災資器材の備蓄・整備の充実」が、「60代以上」では「地域住民が主体となった防災対策の推進」の割合が高くなっています。

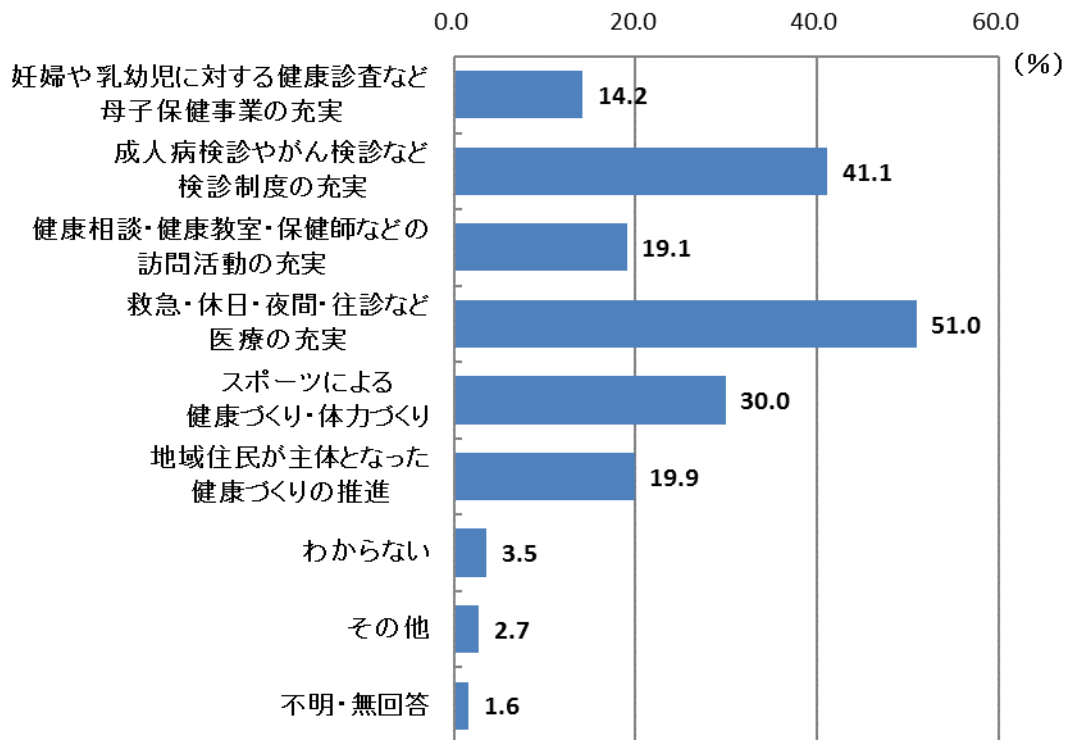


【健康づくり】

問 19 あなたは、健康づくりを充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。(複数回答)

健康づくりの充実策として、「救急・休日・夜間・往診など医療の充実」が51.0%、「成人病検診やがん検診など検診制度の充実」が41.1%、「スポーツによる健康づくり・体力づくり」が30.0%となっています。

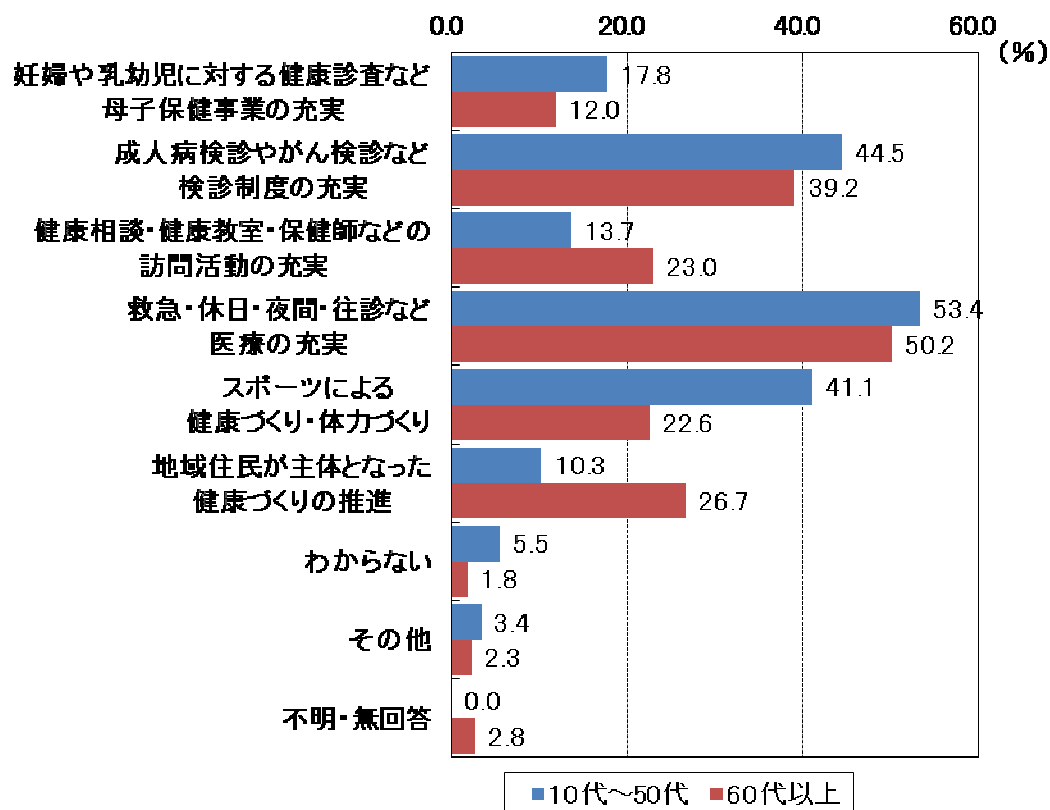
N=367



その他
検診内容の充実
個々人が健康管理に気をつけることが必要
健康増進施設、トレーニング施設、プールの建設
病院の整備
がん検診の無料化
里親制度、児童養護施設の誘致
3人目以降の出産への祝金

問 19×年代

健康づくりの充実策を年代別に見ると、「救急・休日・夜間・往診など医療の充実」や「成人病検診やがん検診など検診制度の充実」は多少の差はあるものの各年代とも割合が高くなっています

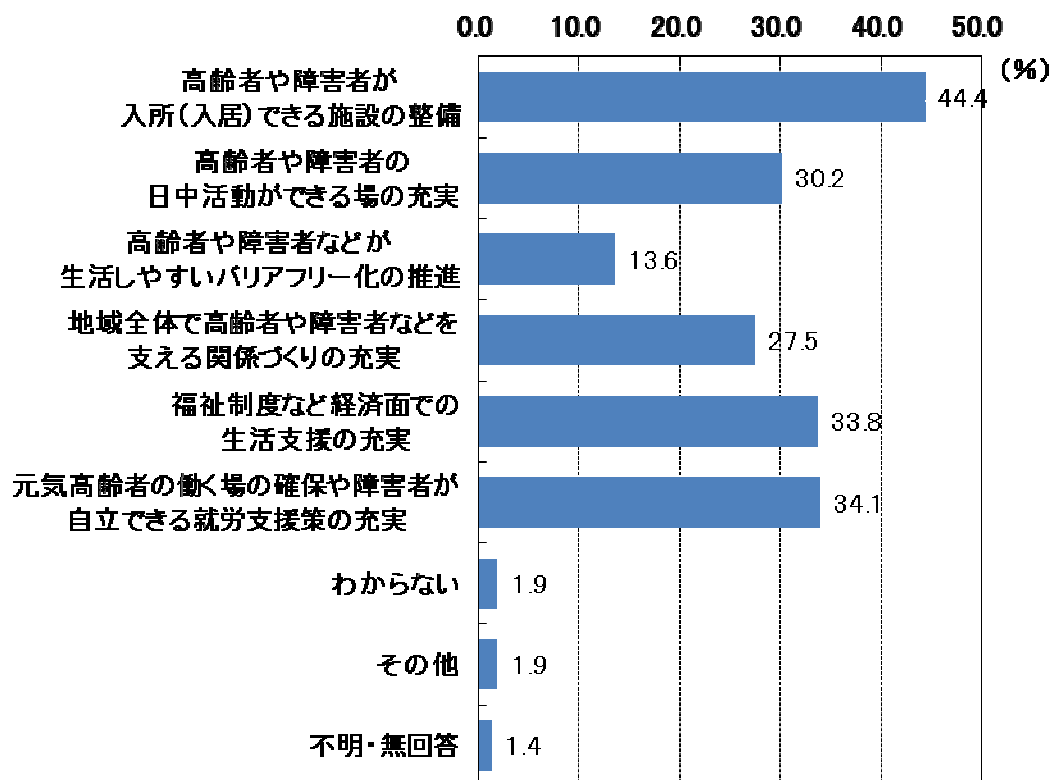


【福祉】

問 20 あなたは、福祉を充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

福祉の充実策として、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」が44.4%、「元気高齢者の働く場の確保や障害者が自律できる就労支援策の充実」が34.1%、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」が33.8%となっています。

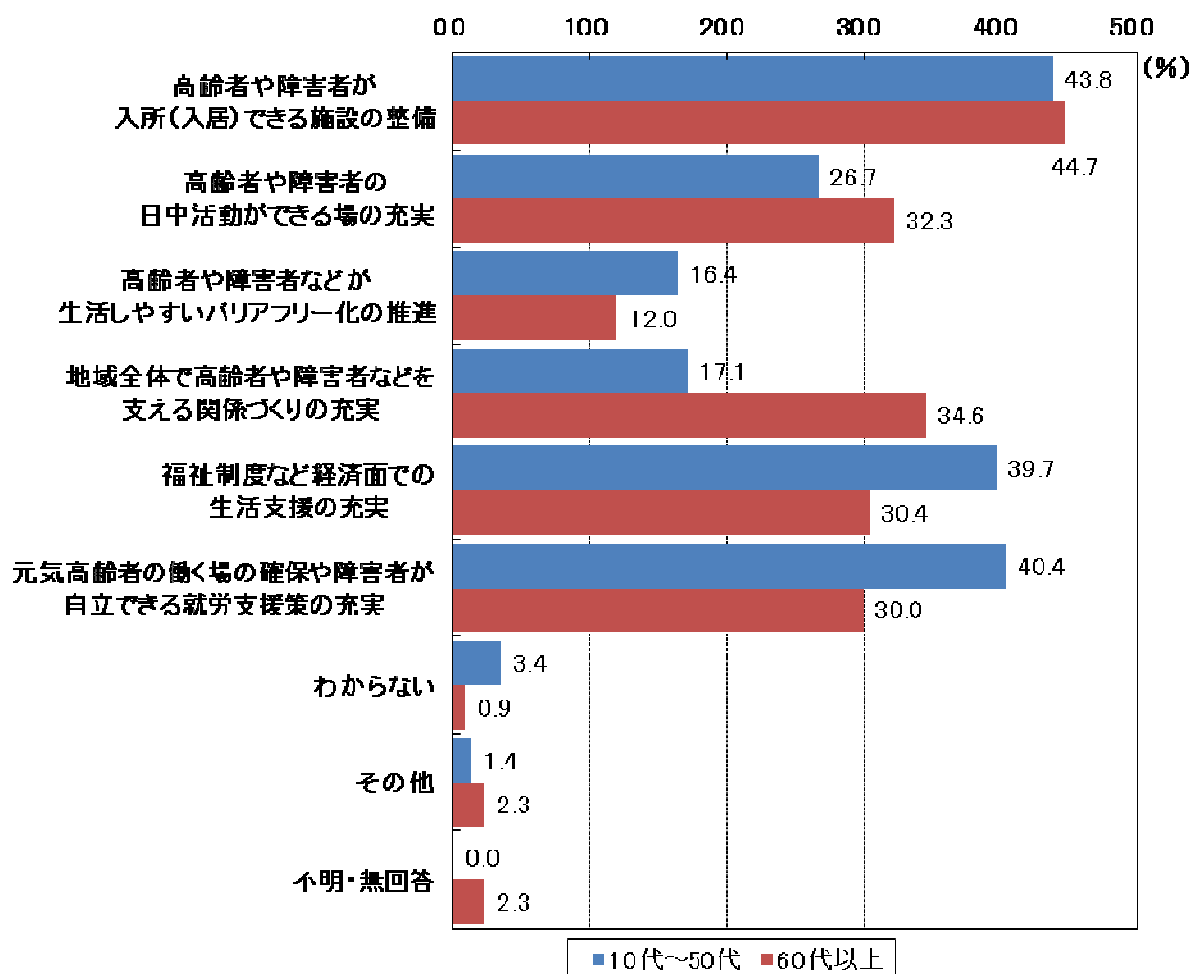
N=367



その他
高齢者向けの配食サービスの回数の増加
交通網の整備
十分に充実されているので、若い世代に投資すべき
高齢者のリハビリができる施設、高齢者のカジノ施設
古江地区に施設がない

問 20×年代

福祉の充実策を年代別に見ると、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」が全世代において割合が高く、次いで「10代～50代」では「元気高齢者の働く場の確保や障害者が自立できる就労支援策の充実」「福祉制度など経済面での生活支援の充実」が、「60代以上」では「地域全体で高齢者や障害者などを支える関係作りの充実」「高齢者や障害者の日中活動ができる場の充実」の割合が高くなっています。

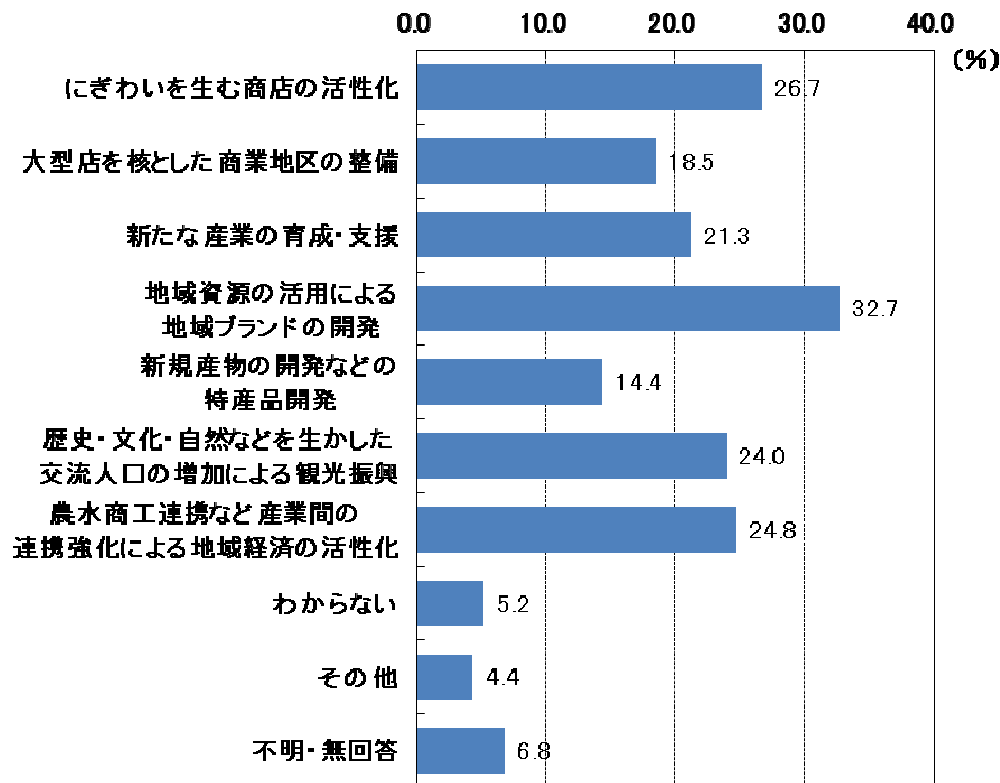


【産業振興】

問 21 あなたは、産業振興・活性化のためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。(複数回答)

産業振興・活性化策として、「地域資源の活用による地域ブランドの開発」が32.7%、「にぎわいを生む商店の活性化」が26.7%、「農商工連携など産業間の連携強化による地域経済の活性化」が24.8%となっています。

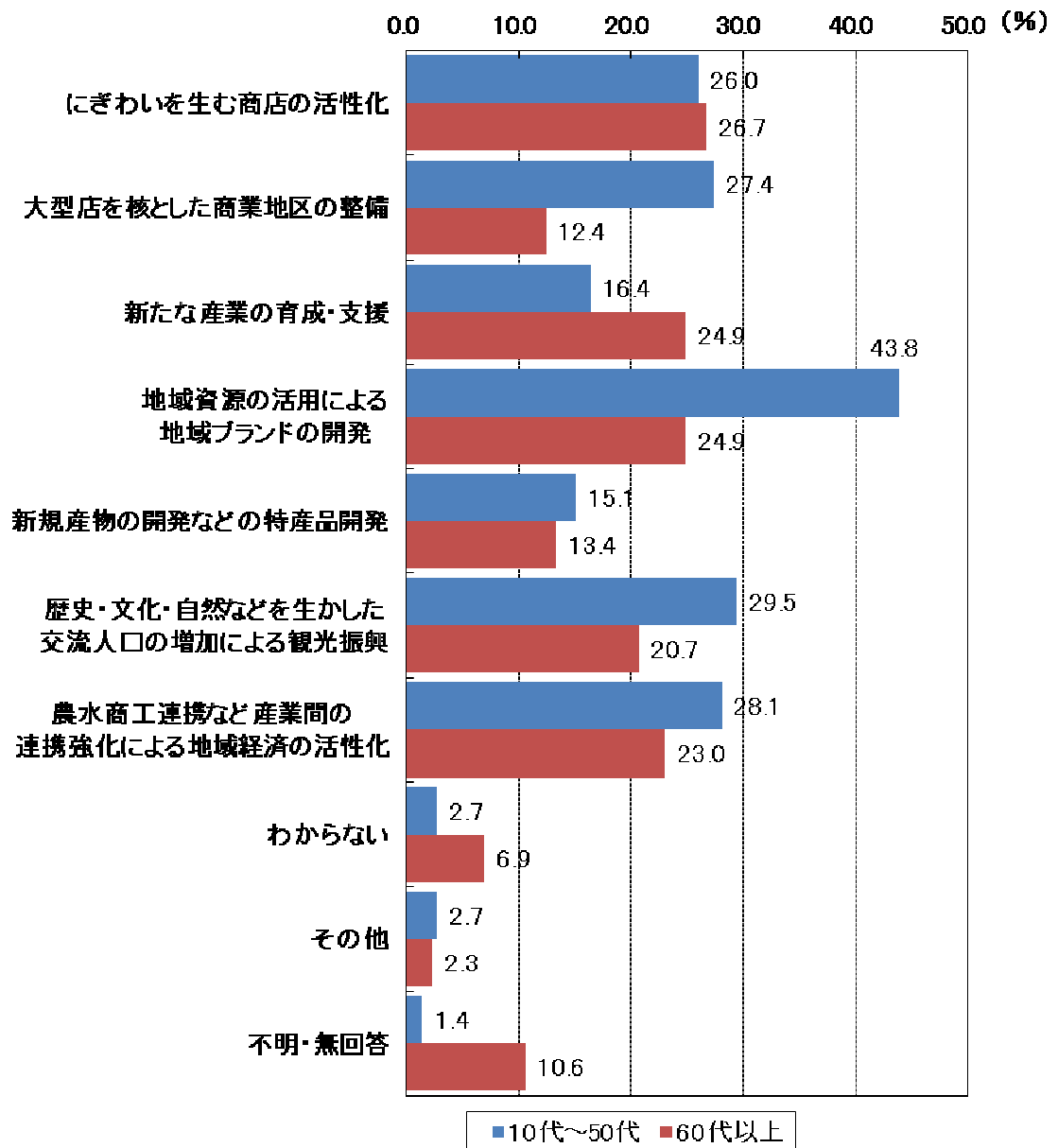
N=367



その他
港湾の利活用
大型店舗の誘致
メタンハイドレートを活用
昔の生活道の発掘
人が嫌うものでも、大きな雇用になるものを誘致
JR 尾鷲駅にバス発着拠点の整備
尾鷲火力へ商業施設と観光施設を整備
ジビエ加工場やジビエカーの整備
商店街の復活

問 21×年代

産業振興・活性化策を年代別に見ると、「地域資源の活用による地域ブランドの開発」や「歴史・文化・自然などを生かした交流人口の増加による観光振興」などでは「10代～50代」の割合が高く、「にぎわいを生む商店の活性化」や「新たな産業の育成・支援」では「60代以上」が高くなっております。

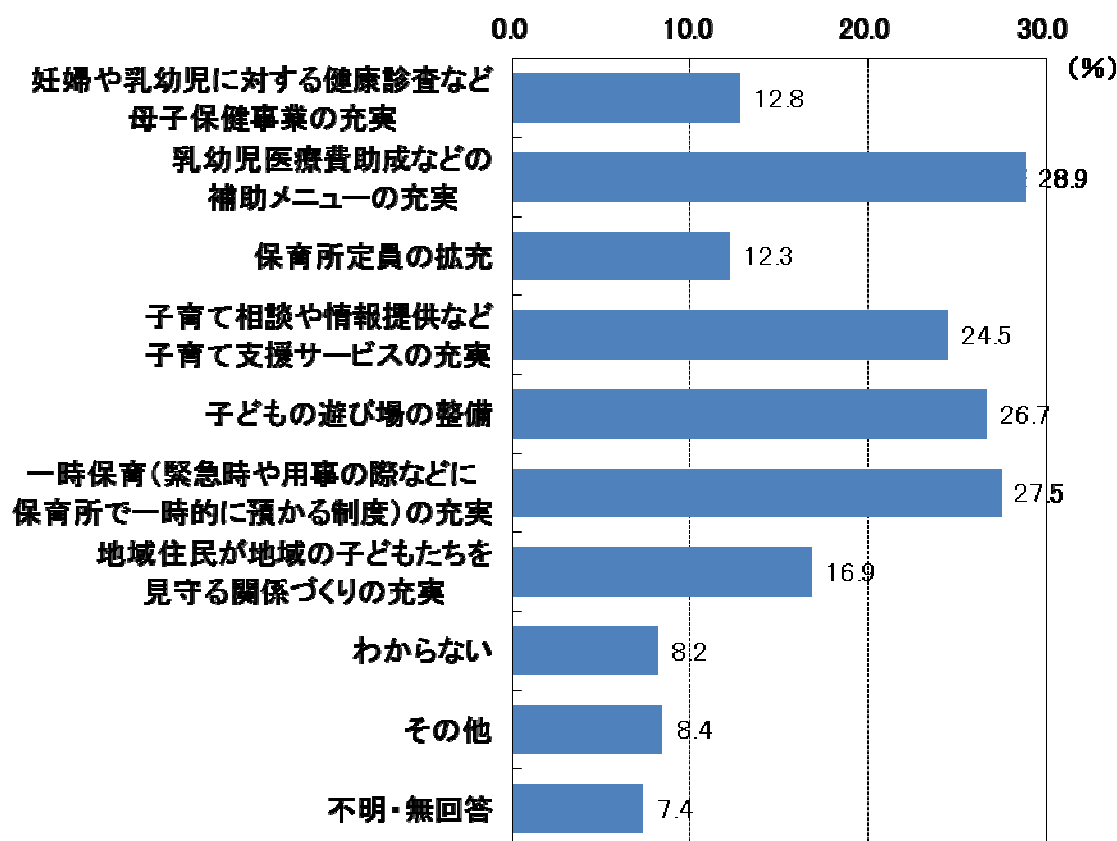


【子育て環境】

問 22 尾鷲市も少子化が重要な課題となっています。あなたは、少子化に対応するにはどのようなことに力を入れるべきだと考えますか。(複数回答)

少子化への対応として、「乳幼児医療費助成などの補助メニューの充実」が 28.9%、「一時保育の充実」が 27.5%、「子供の遊び場の整備」が 26.7%となっています。

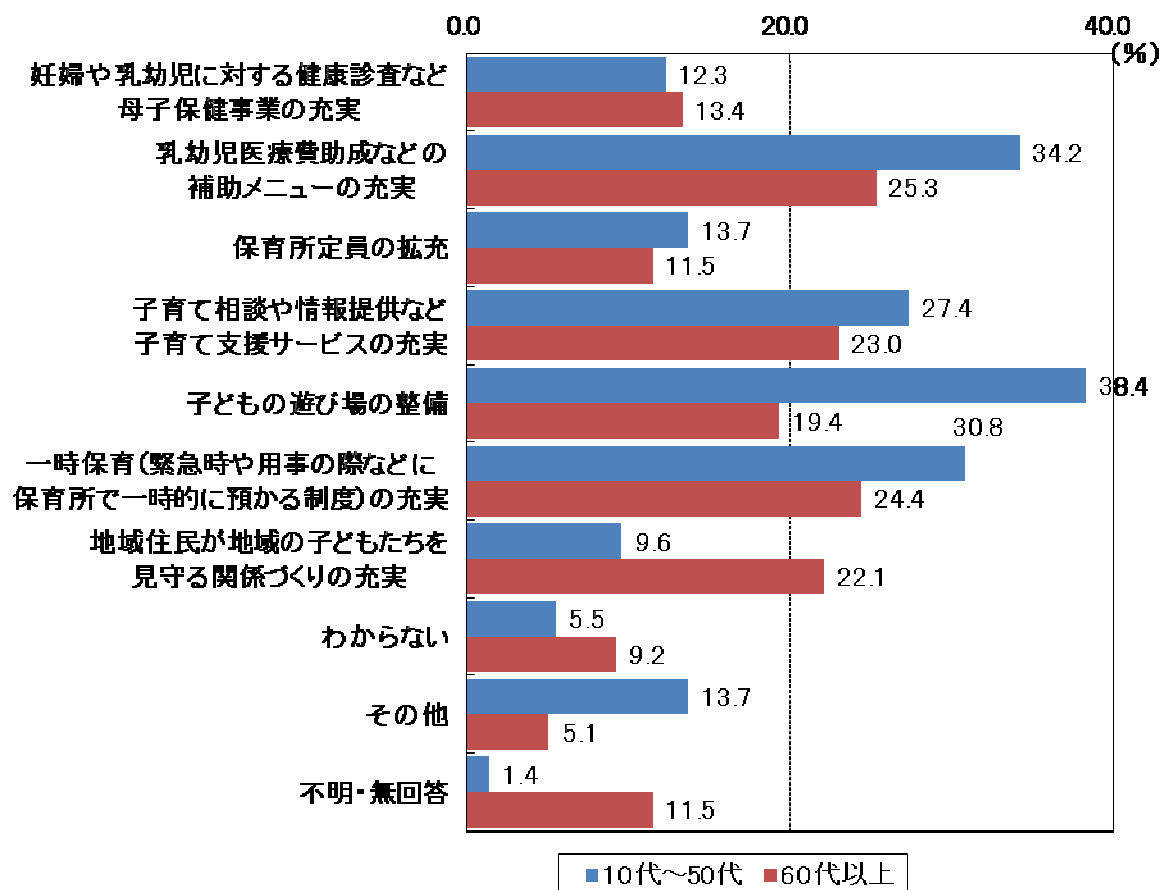
N=367



その他	
働く場所の確保	給与面での待遇改善、収入の安定化
若年層の雇用の場の創出	就労人口の増加
雨天時の遊び場の確保	中村山公園の整備
経済的な支援(児童手当の充実、不妊治療の負担軽減など)	医療費の助成(中学、高校の医療費の無償化など)
保育士・介護士の待遇改善	終業時間の適正な確保
若い世代が尾鷲に帰ってきたいと思える魅力的なまちづくり	療育教室の継続・充実
力を入れなくても良い	

問 22×年代

少子化への対応を年代別に見ると、各世代とも「乳幼児医療費助成などの補助メニューの充実」「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」の比率が高くなっていますが、「10代～50代」では「子どもの遊び場の整備」がもっとも高くなっています。

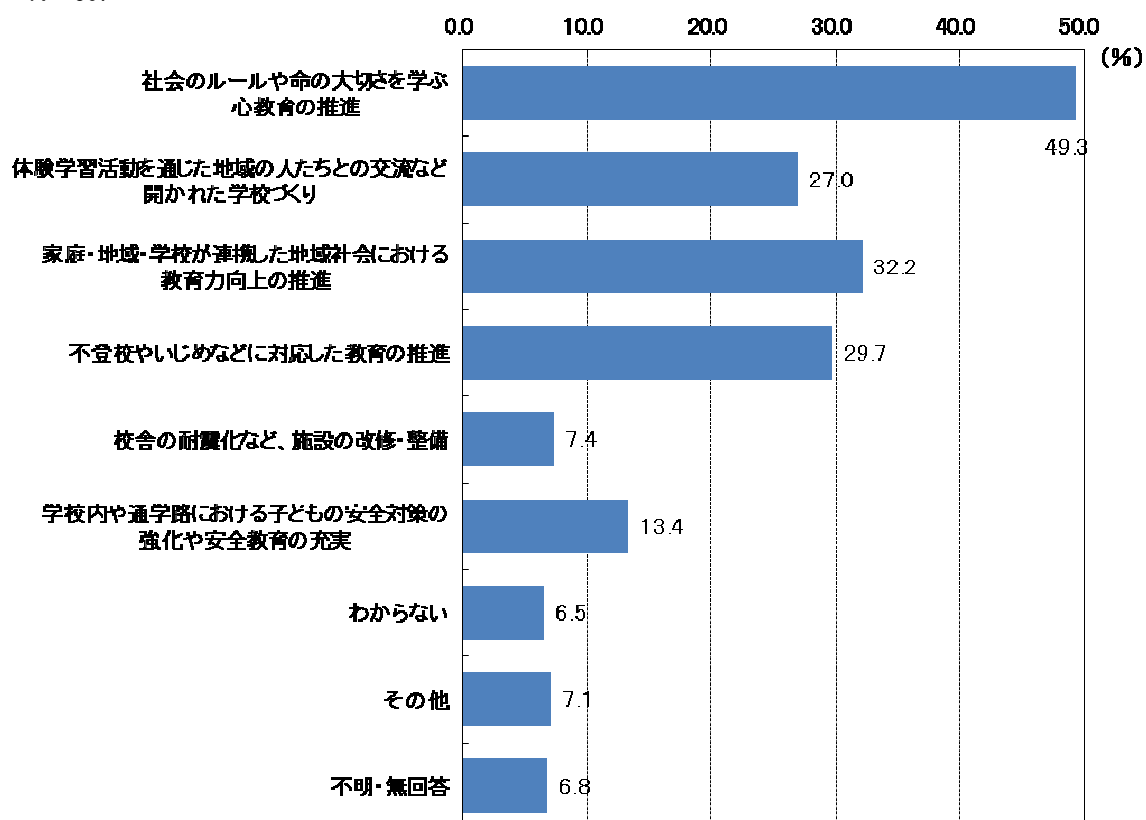


【学校教育】

問 23 あなたは、学校教育を充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

学校教育の充実策として、「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が 49.3%、「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」が 32.2%、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」が 29.7%となっています。

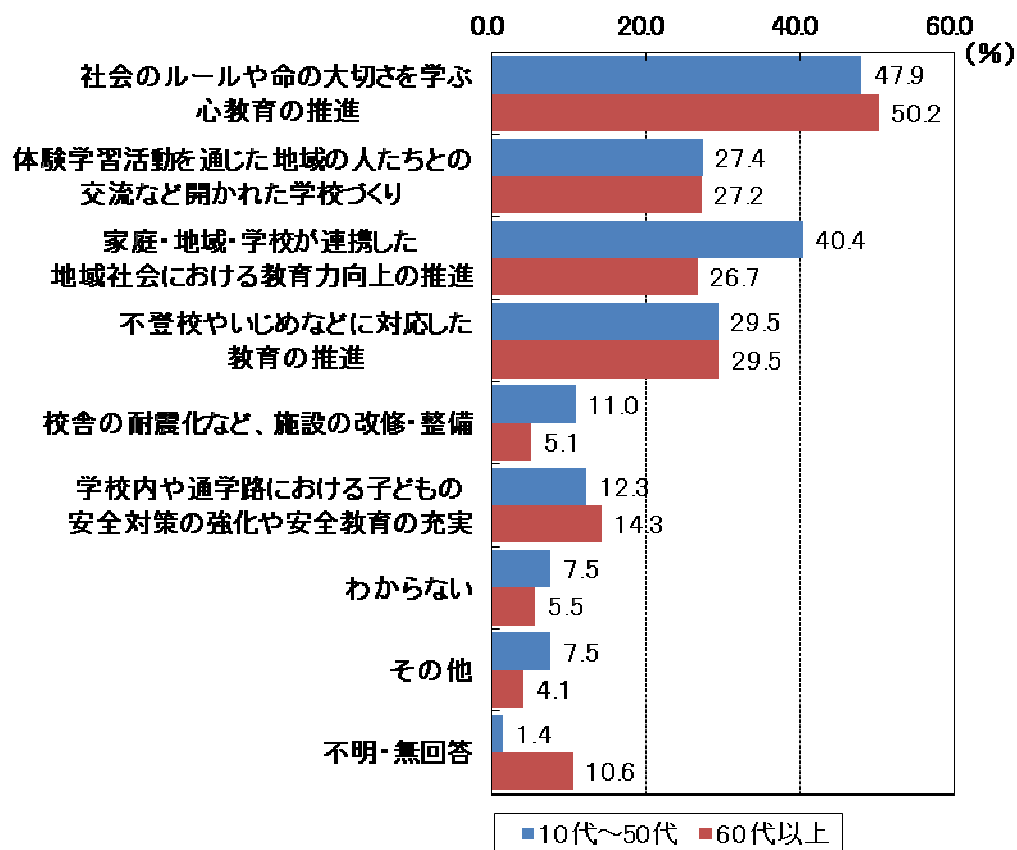
N=367



その他	
学力向上の取り組みの充実	運動場でのスポーツの教科化
小学校低学年に日記を週1日提出	個性を尊重する教育
語学力の向上	教員の意識改革、人材育成
保護者教育の充実	県外・県内の学校関係者との交流
尾鷲小の校舎新築、給食室の新築	中学校給食の完全実施
いじめの早期発見のために教職員にはクラスをよく見てほしい	クラスの人数を減らし、先生の目が届きやすい環境を作る
地域内外との交流(他校、地域コミュニティ、社会見学)	高等学校までは親の元で育てることが充実となる

問 23×年代

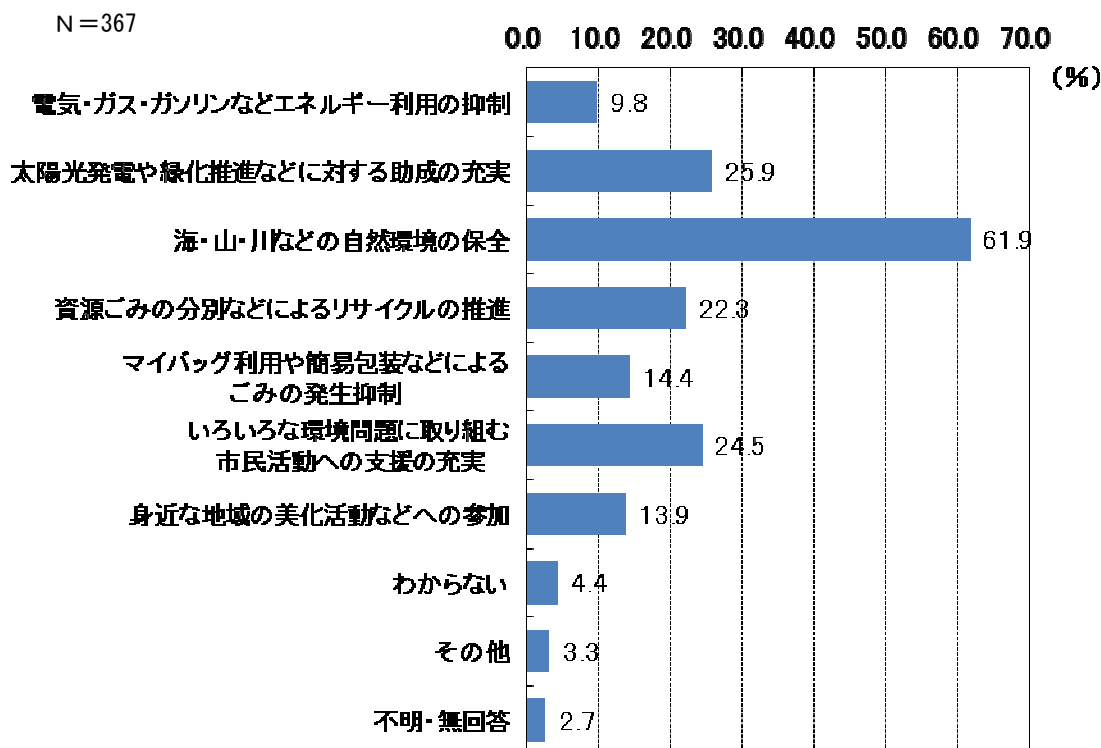
学校教育の充実策を年代別に見ると、各年代とも「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が上位となっておりますが、次いで「10代～50代」では「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」が、「60代以上」では「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」の割合が高く、年代による差が若干見られます。



【環境】

問 24 あなたは、環境を良くするためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
（複数回答）

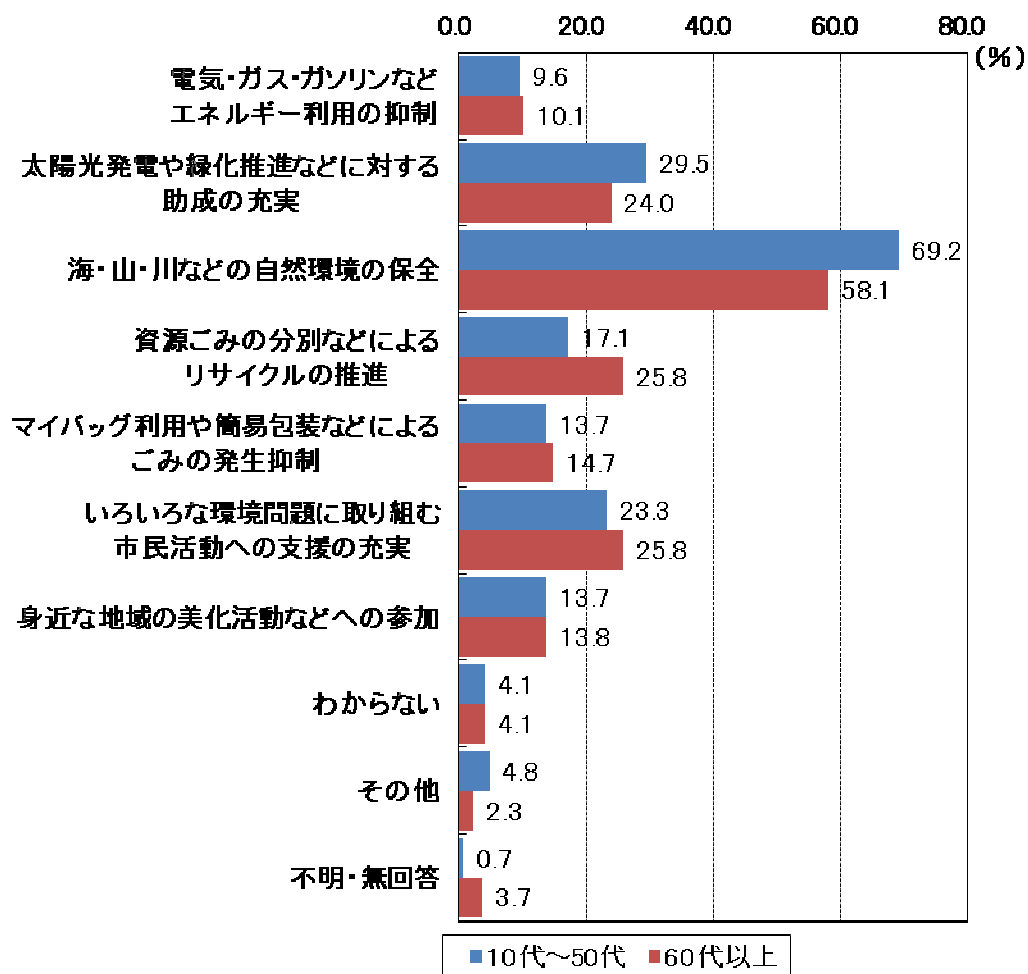
環境を良くする方策として、「海・山・川などの自然環境の保全」が61.9%、「太陽光発電や緑化推進などに対する助成の充実」が25.9%、「いろいろな環境問題に取り組む市民活動への支援の充実」が24.5%となっています。



その他
地域の自然環境を知っていただくための自然観察会
野外商客の禁止
いながごみの集積場にならないように気をつけてほしい
犬の糞の撤去、ごみの不法投棄の禁止など、市民の意識改革
環境・リサイクルの最前線・成功例への視察、勉強
太陽光発電設置のために森林を伐採したり、ごみを減らすためにゴミ箱を減らしてゴミだらけになったり、行政の意図が分からない
中電跡に環境汚染の施設を作るのは逆行している
道路の草の除草、草刈りボランティアなどへの助成
下水道の整備
公害の発生源はかたく反対
お金さえ出せば、電気でも水道でもじゃんじゃん使えば良いと無駄に使っている人が多いと思う。資源は自分だけのものではないと教えなければ。

問 24×年代

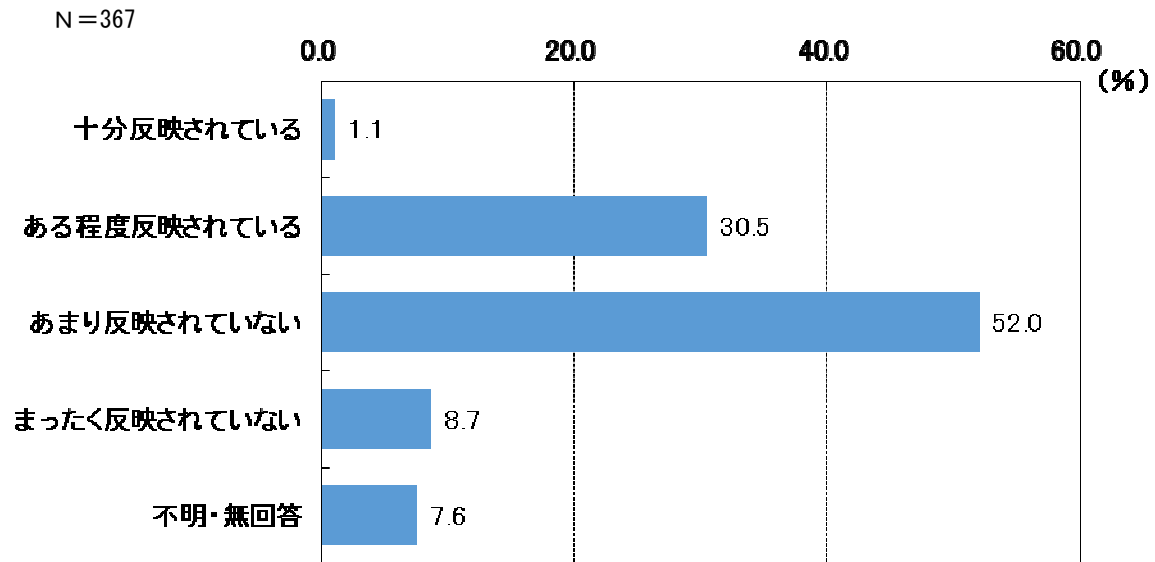
環境を良くする方策としては、各年代ともに「海・山・川などの自然環境の保全」が最も高くなっており、次いで「10代～50代」では「太陽光発電や緑化推進などに対する助成の充実」が、「60代以上」では「資源ごみの分別などによるリサイクルの推進」と「いろいろな環境問題に取り組む市民活動への支援の充実」の割合が高く、年代による差が若干見られます。



【市民意見の反映】

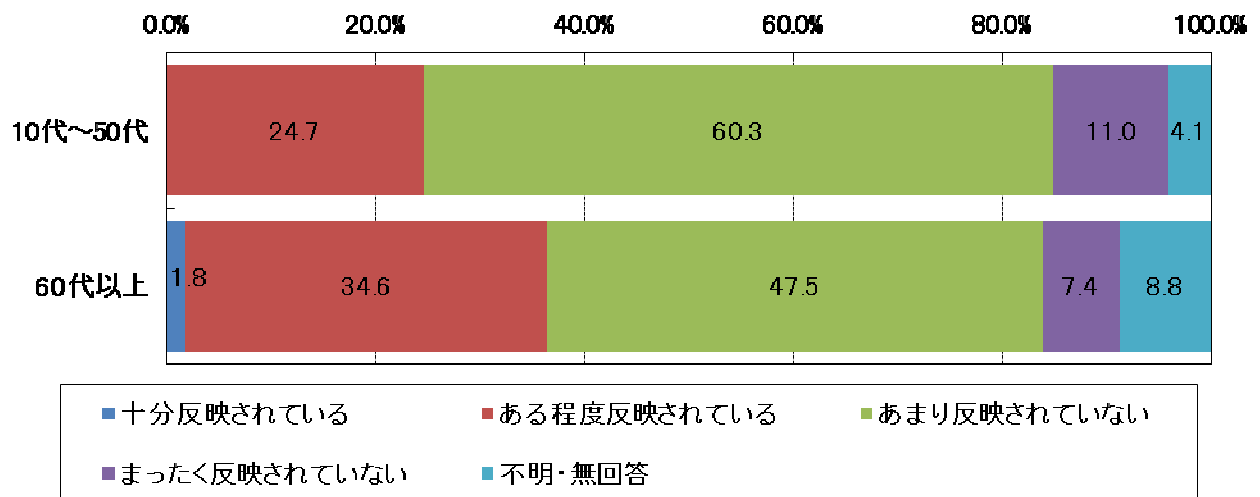
問 25 あなたは、現在の市政に市民の意向がどの程度反映されていると考えていますか。

市政への市民意向の反映状況として、「あまり反映されていない」が52.0%、「まったく反映されていない」が8.7%と、合計で6割以上が「反映されていない」と回答しています。



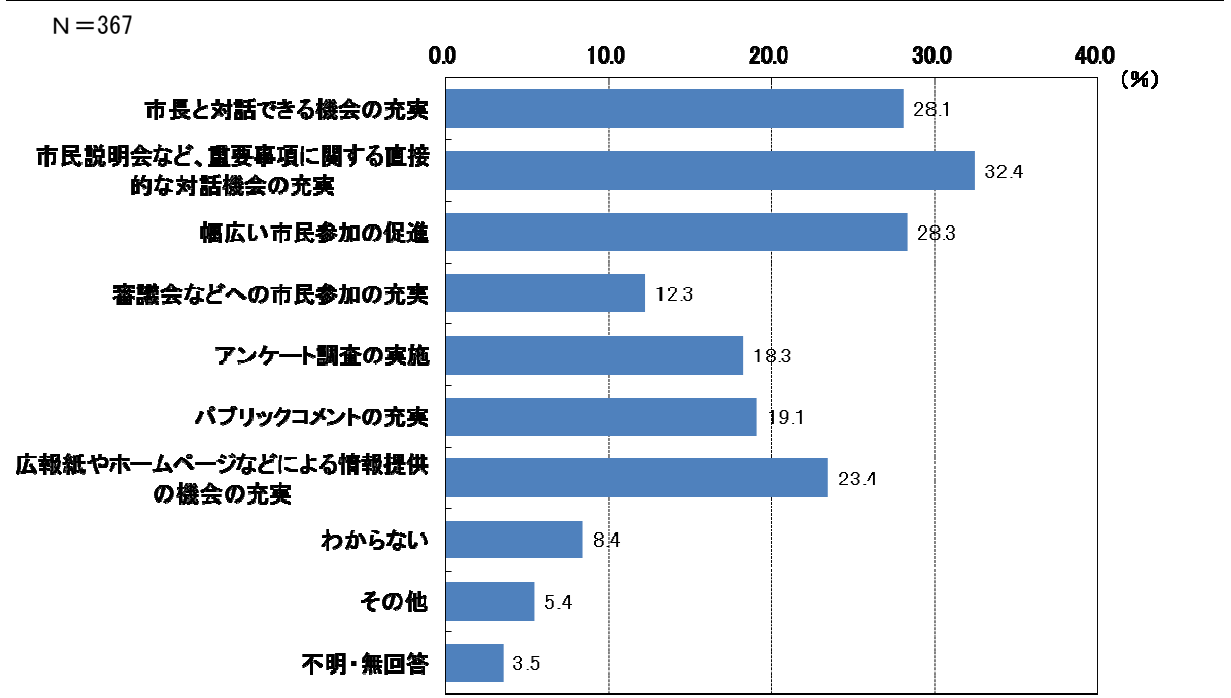
問 25×年代

市政への市民意向の反映状況を年代別に見ると、「あまり反映されていない」「まったく反映されていない」の合計が、「10代～50代」では7割以上、「60代以上」では約5.5割となっています。



問 26 あなたは、できるだけ多くの市民の意向を市政に反映させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。(複数回答)

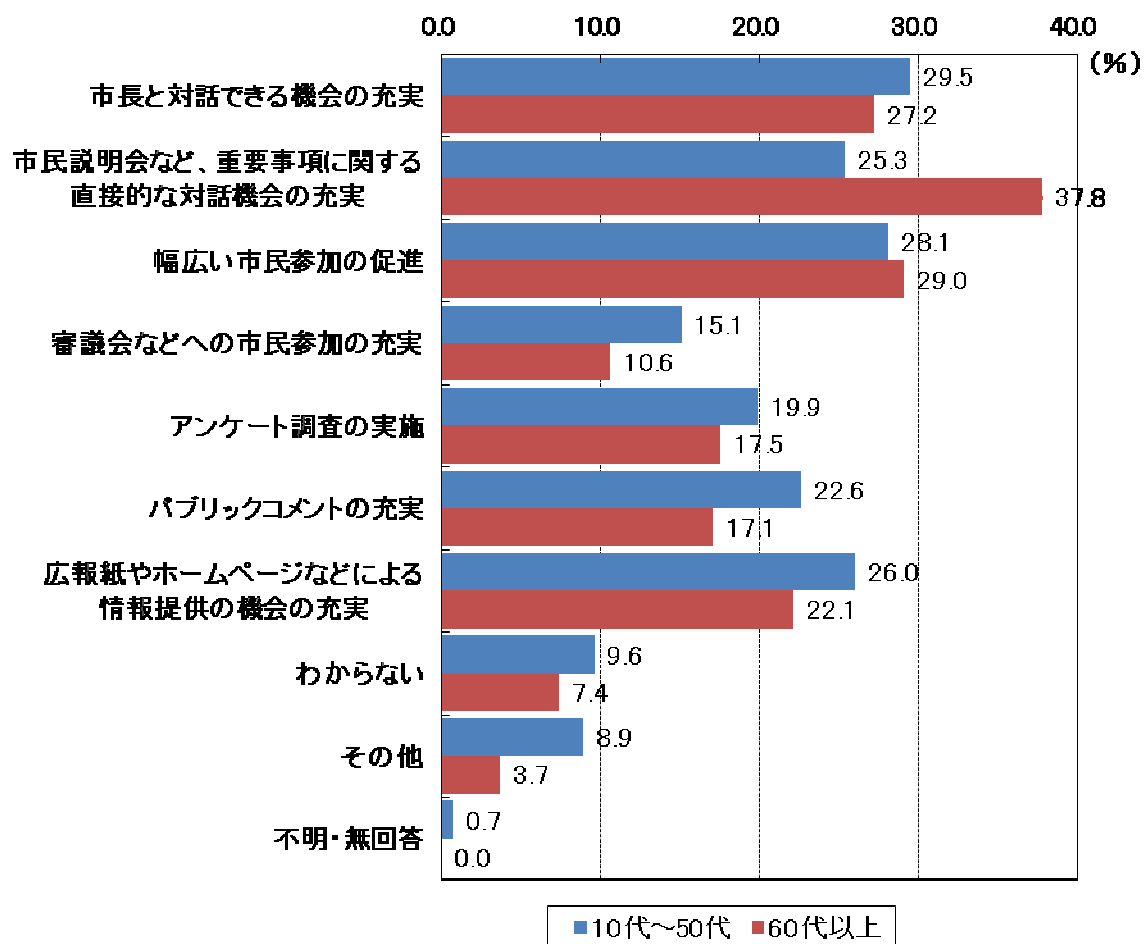
市民意向を市政に反映させる方策として、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が32.4%、「幅広い市民参加の促進」が28.3%、「市長と対話できる機会の充実」が28.1%となっています。



その他
市議会議員の若返りと定年退職
市議会議員のいない地区の要望も気に留めてほしい
市民が意見を言いたくなるような市政にする
比較・統計データの作成・整理・公表の積極的な実施
市長・議員・職員も市民であり、市民参加すべき
市民の意向の前に、市自体が行政プランを計画して取り組んでほしい
議員は毎日市内を歩き、話を吸い上げる
市長、議会の協力と決断
市政情報の積極的な提供
職員の意識改革など市役所の体制整備
市長、議会、職員に市政をお願いしている
広報誌とか読まない人が多いと思うので、民生委員等を大いに利用して対話できるまちづくりに

問 26×年代

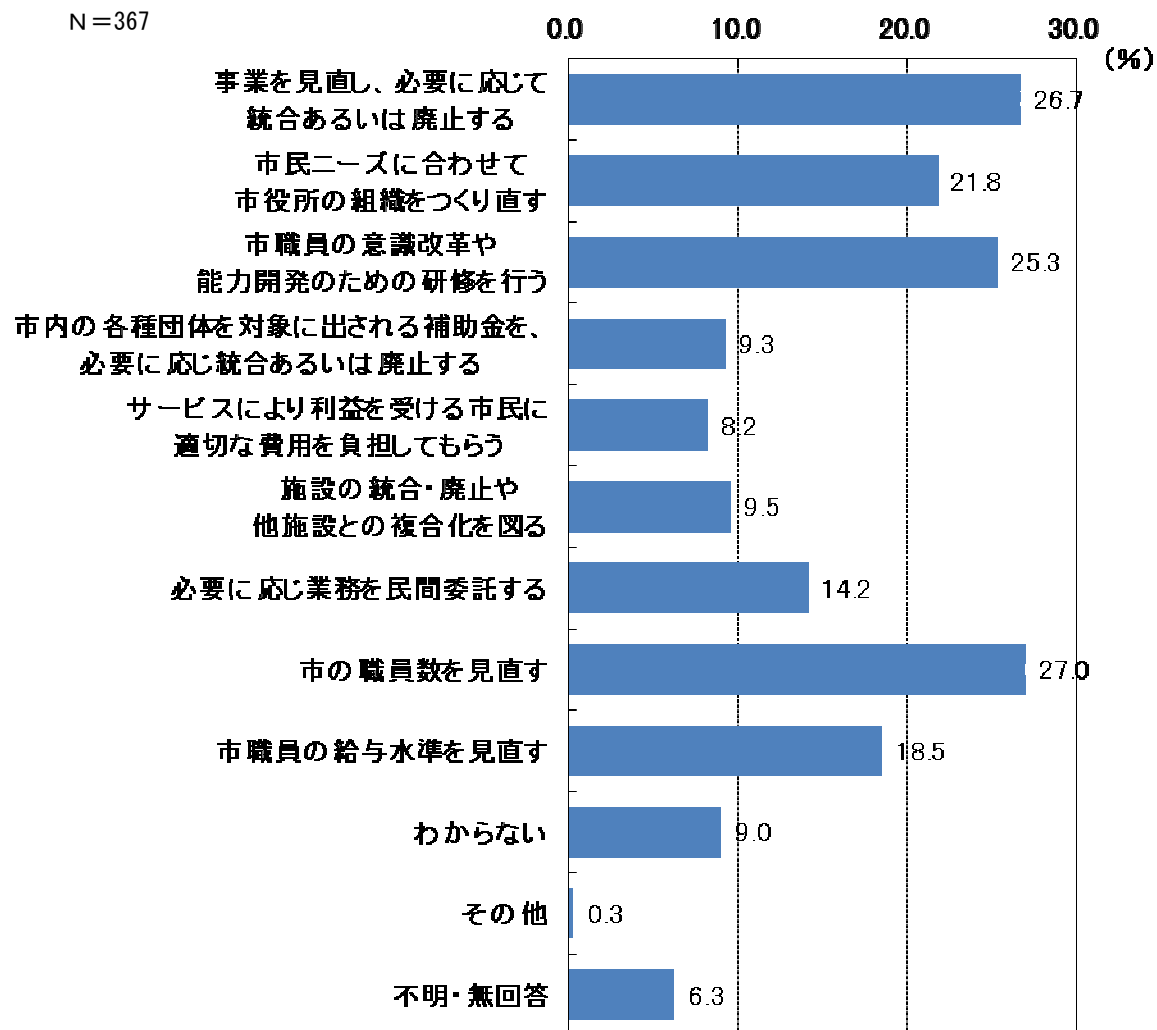
市民意向を市政に反映させる方策を年代別に見ると、「10代～50代」では「市長と対話できる機会の充実」、「60代以上」では「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」の割合が最も高く、次いで「幅広い市民参加の促進」が、各世代において割合が高くなっております。



【行政改革】

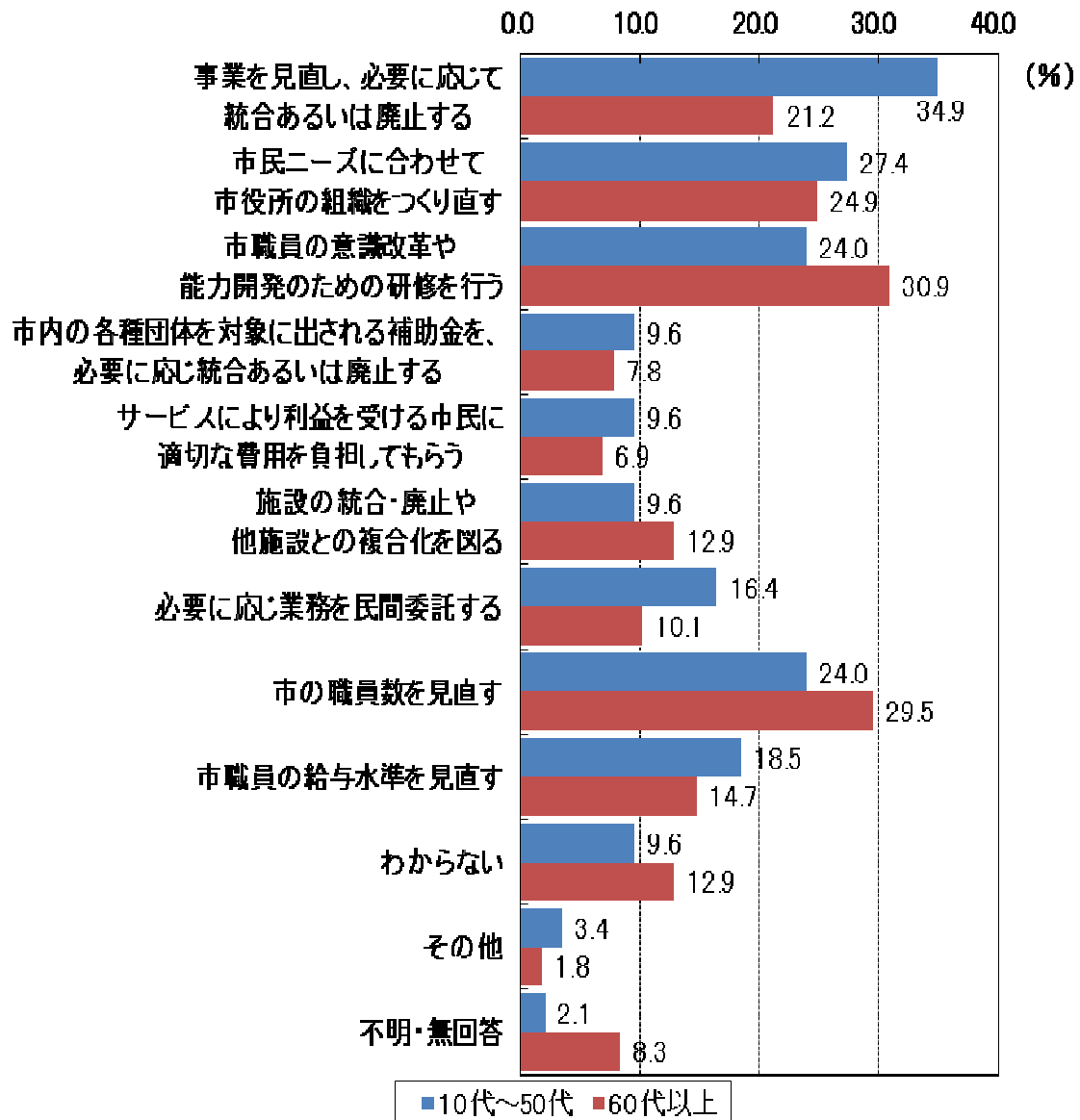
問27 あなたは、効果的かつ効率的な行政サービスを提供するためには、どのような方策が必要だと考えますか。(複数回答)

効率的かつ効果的な行政サービスの提供方策として、「市の職員数を見直す」が27.0%、「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止」が26.7%、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」が25.3%となっています。



問27×年代

効率的かつ効果的な行政サービスの提供方策を年代別に見ると、「10代～50代」では「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止する」や「市民ニーズに合わせて市役所の組織をつくり直す」が、「60代以上」では「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」や「市の職員数を見直す」の割合が高く、年代による差が見られます。



4. 暮らしの満足度と今後の重要度について

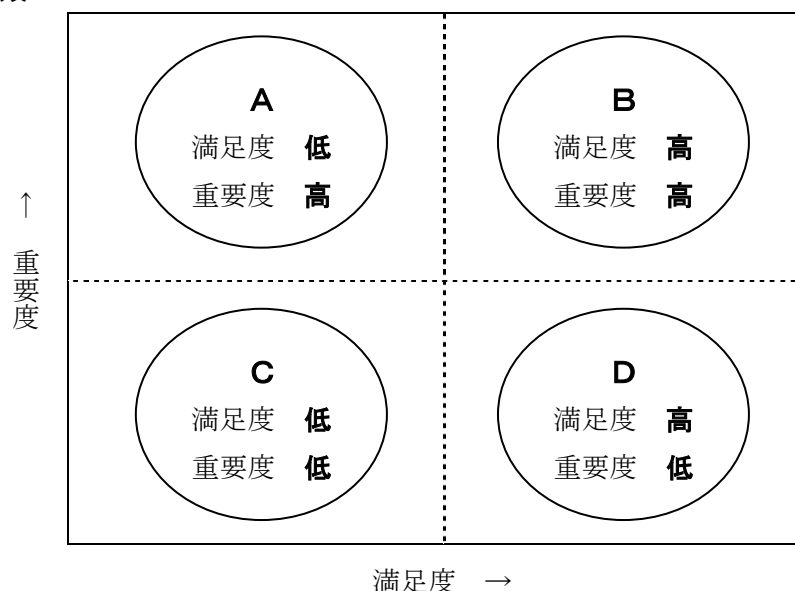
問28 市が実施している取り組みやサービスについて、現在の「満足度」と今後の「重要度」をお聞かせください。

満足度の点数化については、「満足」＝5点、「どちらかといえば満足」＝4点、「普通」＝3点、「どちらかといえば不満」＝2点、「不満」＝1点として、「わからない」「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

重要度の点数化については、「重要」＝5点、「どちらかといえば重要」＝4点、「普通」＝3点、「どちらかといえば重要でない」＝2点、「重要でない」＝1点として、「わからない」「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

市の取り組みやサービスの分野 38 項目について、上記の基準で点数化し、散布図に落とし込みました。

■結果の分類



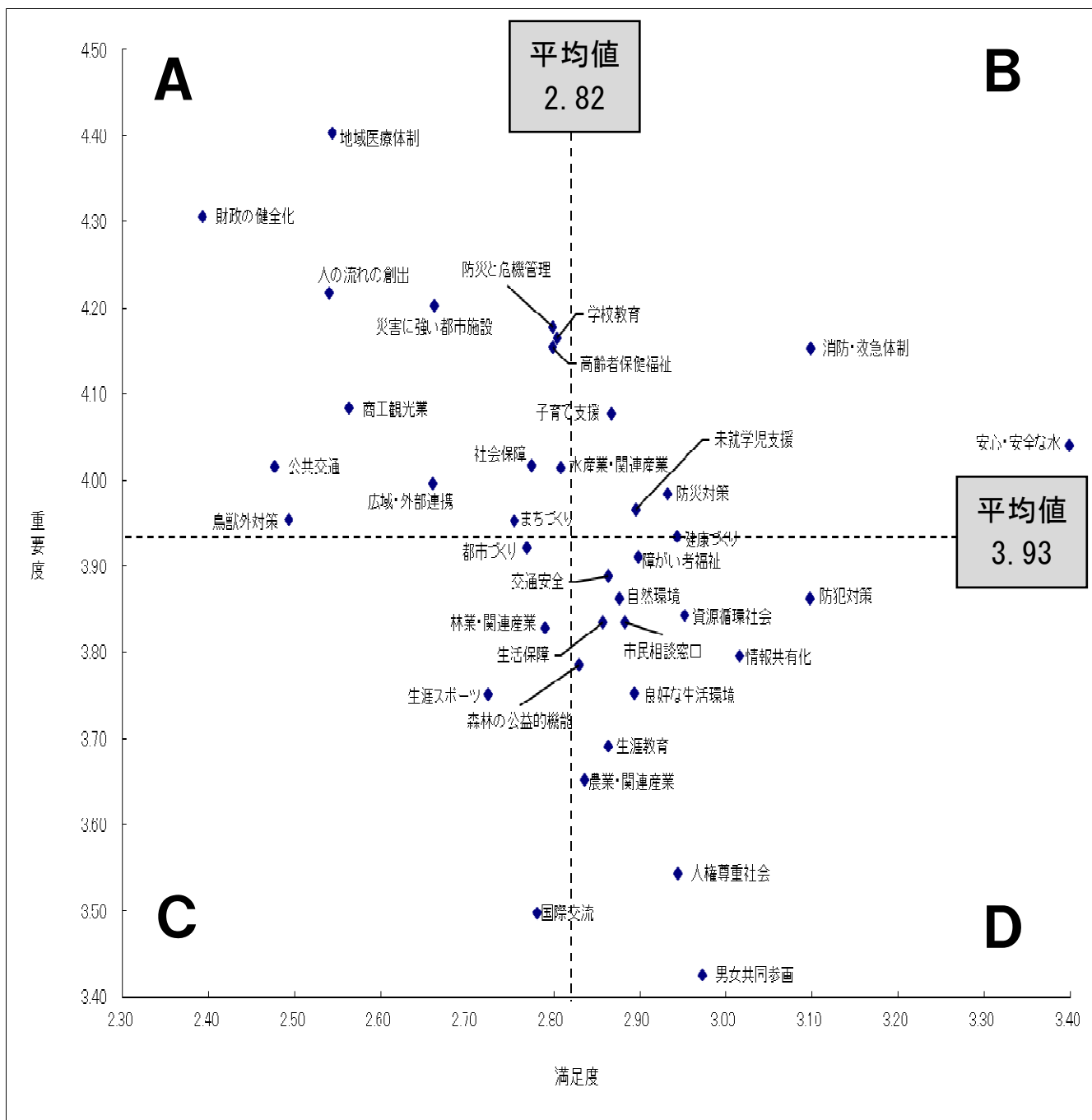
領域	説明
A	重要度が高いにも関わらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C	満足度も重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
D	満足度は高く、重要度が低いため、今後場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

※上記の領域については、あくまで 38 項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であるため、A～Dは絶対的な区分ではありません。

■満足度・重要度の散布図

満足度と重要度の散布図について、「地域医療体制」「財政の健全化」「人の流れの創出」などがAの領域に分類され、今後優先して充実することが求められている項目となります。

一方で、「人権尊重社会」「男女共同参画」「情報共有化」などがDの領域に分類されています。



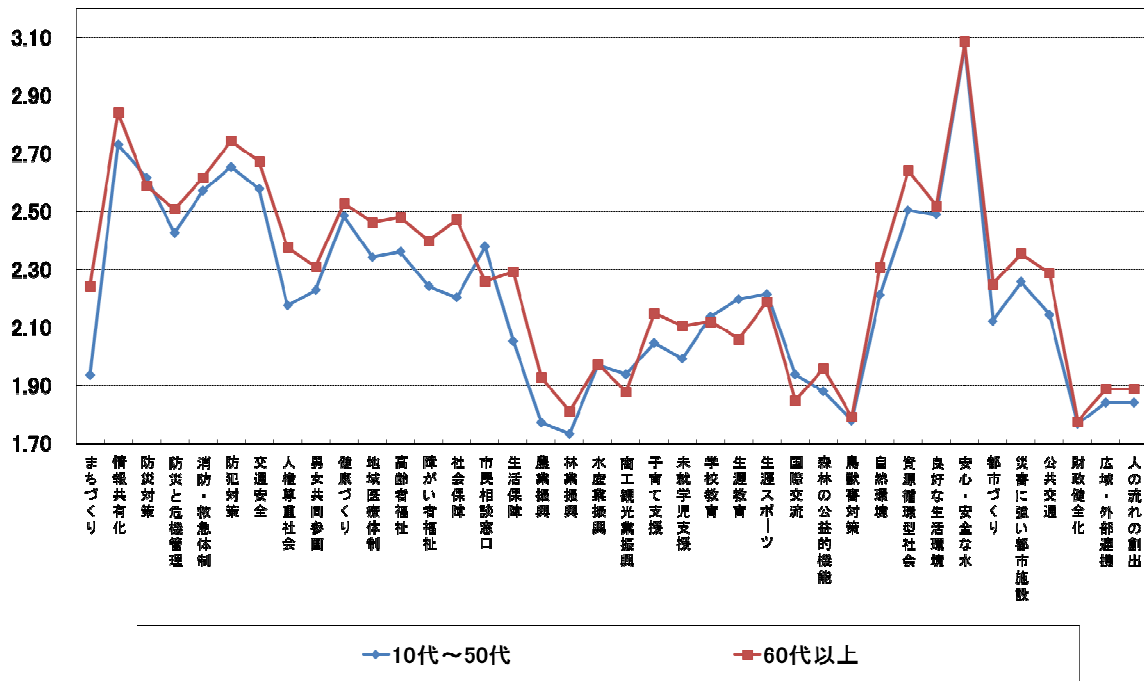
■満足度・重要度一覧

	満足度	重要度
(1) 市民参加によるまちづくり 地域課題を解決するため、共に話し合い、活動している取り組みなど	2.75	3.95
(2) 情報共有化 広報紙、市ホームページなどによる行政情報の提供など	3.02	3.80
(3) 市民参加による防災対策 防災体制づくりの自立的・持続的な取り組みや、安全で安心な取り組みなど	2.93	3.98
(4) 防災と危機管理 土砂災害や雨水浸水などに対応できる都市基盤、避難場所、防災情報の提供、自主防災組織の整備、広域自治体間協力など	2.80	4.18
(5) 消防・救急体制 火災や地震災害等における消火・救急・救助活動確保のための人員体制及び車両・資機材の整備、また、応急手当の普及講習、消防団との連携など	3.10	4.15
(6) 防犯対策 犯罪の不安を感じることはない安全で安心な取り組みなど	3.10	3.86
(7) 交通安全 交通安全意識が高まり、交通事故に遭わない、交通事故が起きない取り組みなど	2.86	3.89
(8) 人権尊重社会 人権に関する学習会や人権相談など、一人ひとりが互いに人権を尊重し合う取り組みなど	2.94	3.54
(9) 男女共同参画の推進 性別にとらわれず、それぞれのライフスタイルや価値観を尊重し合う取り組みなど	2.97	3.43
(10) 健康づくり ライフステージに応じた健康づくり事業、母子保健事業・介護予防事業など	2.94	3.93
(11) 地域医療体制 尾鷲総合病院の診療体制や設備、地域内の医院・診療所など	2.54	4.40
(12) 高齢者保健福祉 いつまでも元気に社会のなかで活躍し、介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らすことができる取り組みなど	2.80	4.15
(13) 障がい者福祉 自立支援などの福祉サービスにより、住み慣れた地域で暮らせる取り組みなど	2.90	3.91
(14) 社会保障の確保 安心して生活ができる、社会保障制度が健全に運営される取り組みなど	2.78	4.02
(15) 市民相談窓口の確保 必要ときに適切な相談を受けることができる取り組みなど	2.88	3.83
(16) 生活保障の確保 必要ときに適切な支援を受けることができる取り組みなど	2.86	3.84
(17) 農業振興 さまざまな形態の農業活動が行われ、農地の保全・管理、活用がされる取り組みなど	2.84	3.65
(18) 林業振興 経営基盤が強化され、施業を継続的に実施できる取り組みなど	2.79	3.83
(19) 水産業振興 水揚げ量の拡大、生産体系の見直しや生産性及び付加価値の向上により、水産業が持続できる取り組みなど	2.81	4.01
(20) 商工観光業振興 活発な産業活動により、魅力ある雇用の場が創出される取り組みなど	2.56	4.08
(21) 子育て支援 保育サービス、子育てに関する相談体制や情報提供、放課後の子どもの安全な活動場所などの環境づくりなど	2.87	4.08
(22) 未就学児支援 未就学児が健やかに成長できる取り組みなど	2.90	3.97
(23) 学校教育 一人ひとりの個性や能力を伸ばし、確かな学力、豊かな心、健康な体づくりにより、笑顔いっぱいの子どもを育む取り組みなど	2.80	4.16
(24) 生涯教育の推進 文化・生涯学習を行うための設備の管理、その指導者の育成支援など	2.86	3.69
(25) 生涯スポーツの推進 年齢、体力、好みに応じて多くのスポーツに触れ、楽しくスポーツが親しめる取り組みなど	2.72	3.75
(26) 国際交流の推進 多様な交流ができ、国際感覚豊かな人づくりがされる取り組みなど	2.78	3.50
(27) 森林の公益的機能 適正に管理・保全され、森林の公益的機能が確保される取り組みなど	2.83	3.79

(28)鳥獣害対策の推進 野生鳥獣との共生を図り、鳥獣害が発生しない取り組みなど	2.49	3.95
(29)自然環境 自然環境や生態系に配慮し、良好な自然が残る取り組みなど	2.88	3.86
(30)資源循環型社会の推進 ごみの発生抑制・再利用・再生利用が進んだ、環境に負荷をかけない取り組みなど	2.95	3.84
(31)良好な生活環境の保全 環境負荷を低減し、快適な生活が営める取り組みなど	2.89	3.75
(32)安全・安心な水の確保 安全で安心な水が安定供給される取り組みなど	3.40	4.04
(33)都市づくり 安心して暮らせる都市基盤が整備される取り組みなど	2.77	3.92
(34)災害に強い都市施設 災害に強い都市施設により、安心して快適に暮らせる取り組みなど	2.66	4.20
(35)公共交通 安全で利便性が高く、環境にやさしい公共交通により快適に暮らし、移動ができる取り組みなど	2.48	4.02
(36)財政の健全化 行政組織のスリム化などの構造改革、財政運営の見直し、職員の意識改革を行い、持続可能な行政体質への変革を図るなど	2.39	4.31
(37)広域・外部連携の推進 近隣市町や産学官の連携、共創による新たなまちづくりがされる取り組みなど	2.66	4.00
(38)人の流れの創出 多くの市民が住み続けたいと思い、市外の人も住み続けたいと思えるまちとなるような定住移住に対する取り組みなど	2.54	4.22
平均	2.82	3.93

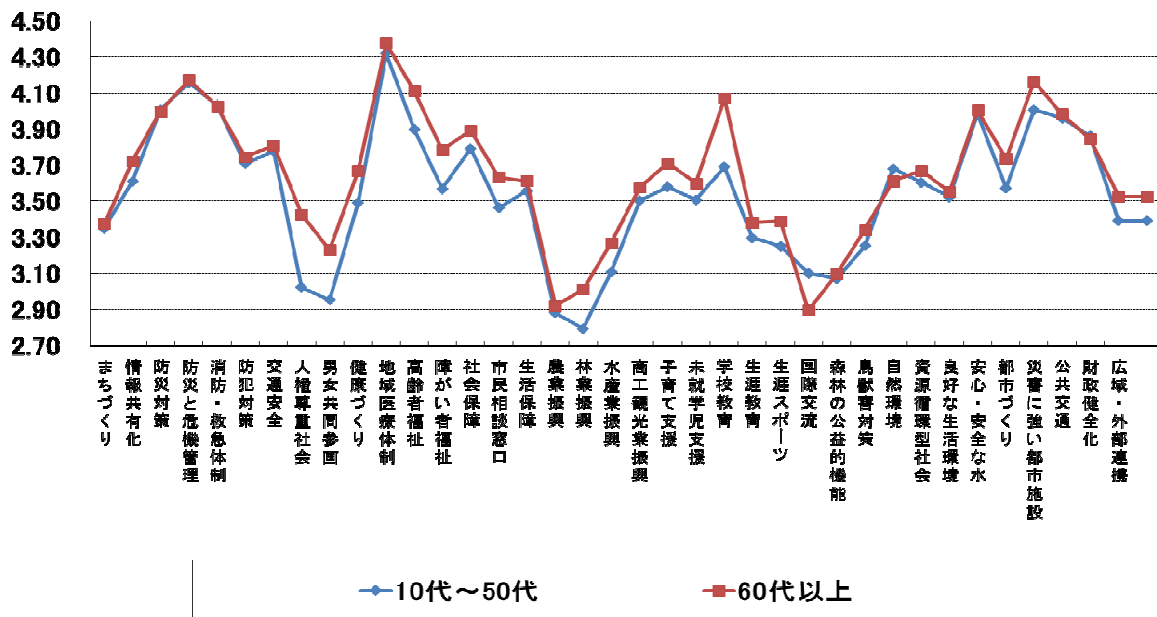
■満足度×年代

満足度について年代別に見ると、ほとんどの項目で「60代以上」の方が高い割合となっていますが、「市民相談窓口」「商工観光業振興」「生涯教育」「国際交流」では「10代～50代」の方が高くなっています。



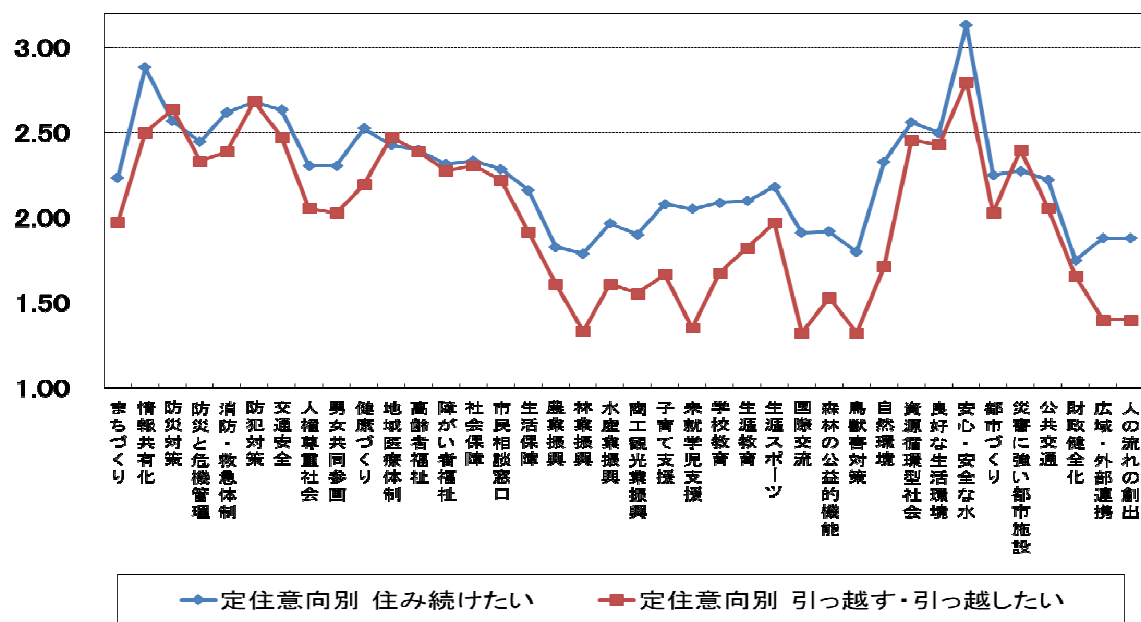
■重要度×年代

重要度について年代別に見ると、ほとんどの項目で「60代以上」の方が高い割合となっており、特に「人権尊重社会」「学校教育」では「10代～50代」との大きな差が見られます。一方で、「国際交流」では「10代～50代」の方が高くなっています。



■満足度×定住意向

満足度について定住意向別に見ると、ほとんどの項目で「住み続けたい」の方が高い割合となっており、特に「未就学児支援」「国際交流」などでは、定住意向によって大きな差が見られます。一方で、「災害に強い都市施設」では、「引越す・引越したい」を選んだ方のほうが高くなっています。



■重要度×定住意向

重要度について定住意向別に見ると、「未就学児支援」や「資源循環型社会」などでは「住み続けたい」を選んだ方の割合が高くなっており、「交通安全」や「人権尊重社会」などでは「引越す・引越したい」を選んだ方のほうが高くなっています。

